





世界には
ユダヤ教

キリスト教

仏教

道教など…

多くの宗教が
あることは
知っているだろ

甦った神々



それくらいのことば
僕だって知っているよ

じゃー

万教同根
ばんきょうどうこん
という言葉は
聞いたことあるか?

聞いたことがない
どういう意味?



この言葉は『大木』という
宗教団体をつくった
出口王仁三郎でぐちおにさぶろうという方が
言った言葉なんだが

すべての宗教の根は
同じという意味なんだ

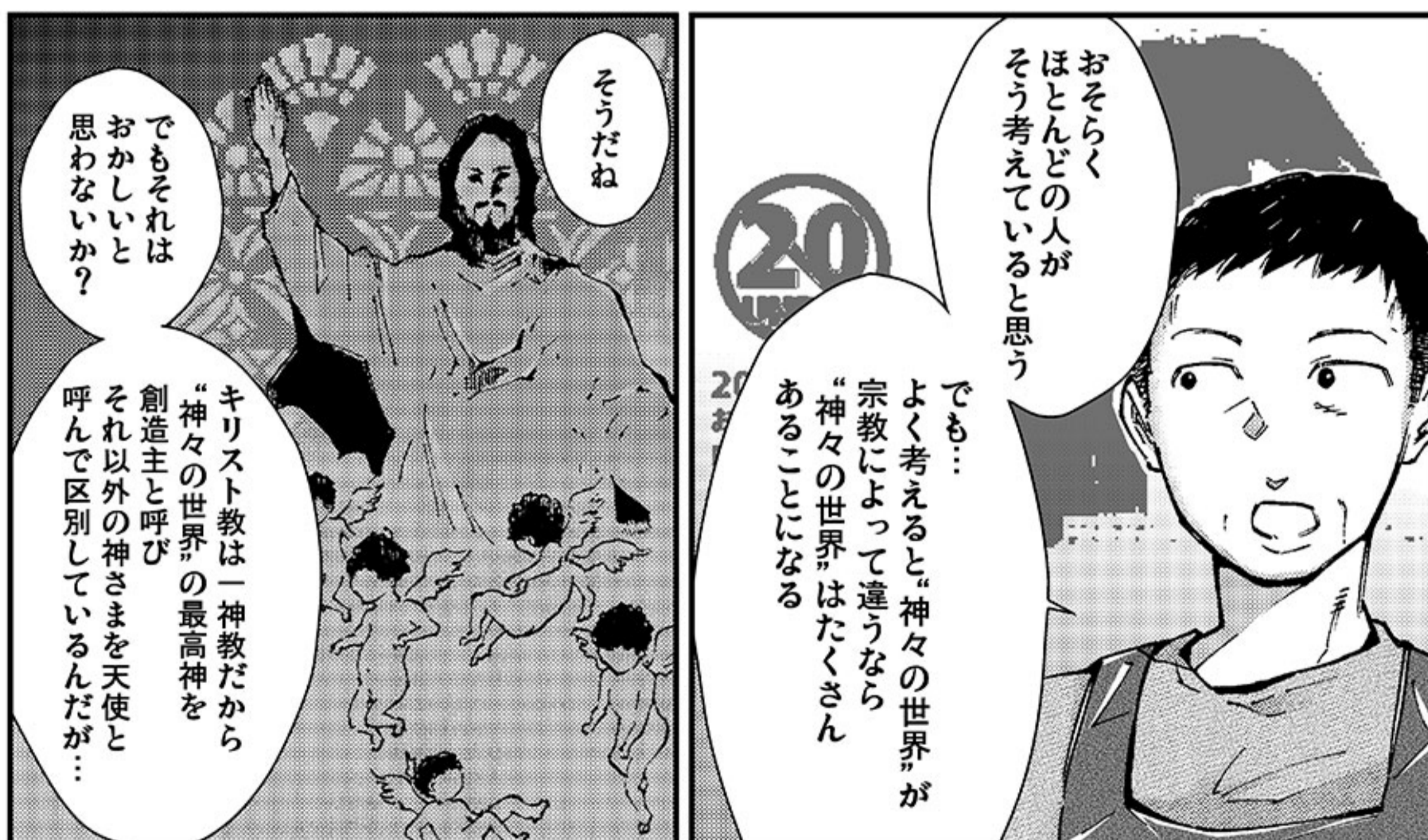
つまりすべての宗教は
同じ教えから生まれたという
ことなんだ
この言葉に象徴されるように
“神々の世界”は一つしかないんだ



それじゃー
ユダヤ教やキリスト教の
神さまと
仏教や道教の神さまは
同じ神さまになるよね

それは
信じられない

無理はないと思う
私も宗教によって
神さまは異なるものと
思っていた



おそらく
ほとんどの人が
そう考えていると思う

でも…
よく考えると“神々の世界”が
宗教によって違うなら
“神々の世界”はたくさん
あることになる

そうだね

でもそれは
おかしいと
思わないか？

キリスト教は一神教だから
“神々の世界”の最高神を
創造主と呼び
それ以外の神さまを天使と
呼んで区別しているんだが…



それはともかく
この創造主のいる
創造世界…それは
“神々の世界”と言っても
いいんだが

それは宇宙や人や動物など
すべてを創造することの
できる世界のことを
言っているんだ

その世界がいくつもあるのはおかしいと
思わないか？

そう言われてみれば
そうだね

“神々の世界”は
一つしかないんだ
その一つの“神々の世界”から
色々な宗教ができたんだよ



それって
お父さんの直感で
そう思っている
だけじゃないの？

そうじゃない
私はそれを示す
証拠をいっぱい
見つけたんだ
それがさっきの
本になったんだよ

わかった
僕も信じるよ



その一つしかない
“神々の世界”の神々の中には
地球の“崩壊と再生”の
“約束の時”の時に…

“約束の人”によって
甦る神々もおられるんだ

それは
すごいね…



だから
これから紹介する
香代子先生が
体験した
“神々の世界”は

今の世界の主な
宗教の
ルーツであり
それらの宗教の
教えの元の…
“神々の世界”
なんだよ







“それは奥さんの守護神の
照姫龍王てんしりゆうおうという神さまの
お知らせです”

その守護神をお祀りすれば
その症状はすぐに治ります”
と言われたんだよ

へえー
そんなことが
あるの？



それで守護神って
いうのは
どんな神さまなの？

人間を守護して
くれる
神さまのことだよ

そんな神さま
がいるの？

いるんだ
私には
眞徳龍神まんとくりゆうじんという
神さまが守護して
くださっている

香代子先生に
調べていただいた
んだが…

この守護神は人が
選ぶことはできず
神さまが人を
選ばれるんだ



へえー
そうなの

さっきの話に
戻ろう

それでご主人は
早速 安藤先生に
照姫龍王てんしりゆうおうさまの

御魂みたまの入魂を
お願いして
お祀りしたんだ

すると不思議なことに
この時から頻繁に
起こっていた香代子先生の
心臓発作はまったく
起こらなくなったんだよ

そんなことって
ほんとうに
あるんだね

香代子先生の謎の
心臓発作は神さまと
ご縁をいただくために
起こっていたんだよ



そうかも
しれないね

その後
昭和41年
香代子先生に大きな
転機が訪れた

ご主人の仕事の
関係者の倉本さん
という方が
ご主人の背後に何か
大きな存在を感じたんだよ



野崎さん
あなたの背後に
何か大きな存在を
感じるんです...

奥さんじゃないかと
思うので一度
奥さんに合わせて
いただけないでしょうか？



場面は
ご主人の仕事場に
変わります



実は私は仕事のかたわら
神事の修業を30年以上
しているんですよ

倉本さん

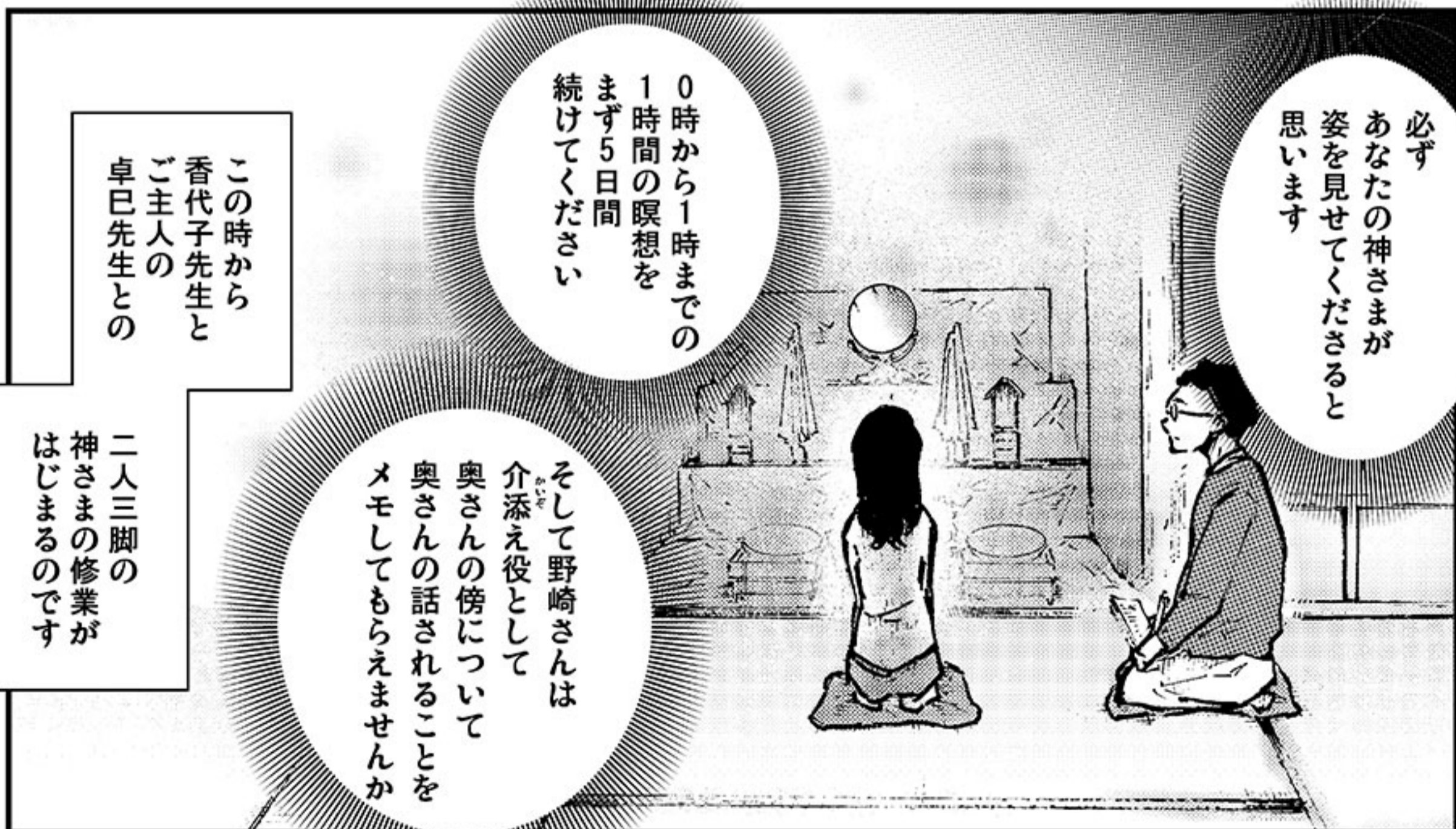
なるほど
修業をされて
いたんですか...

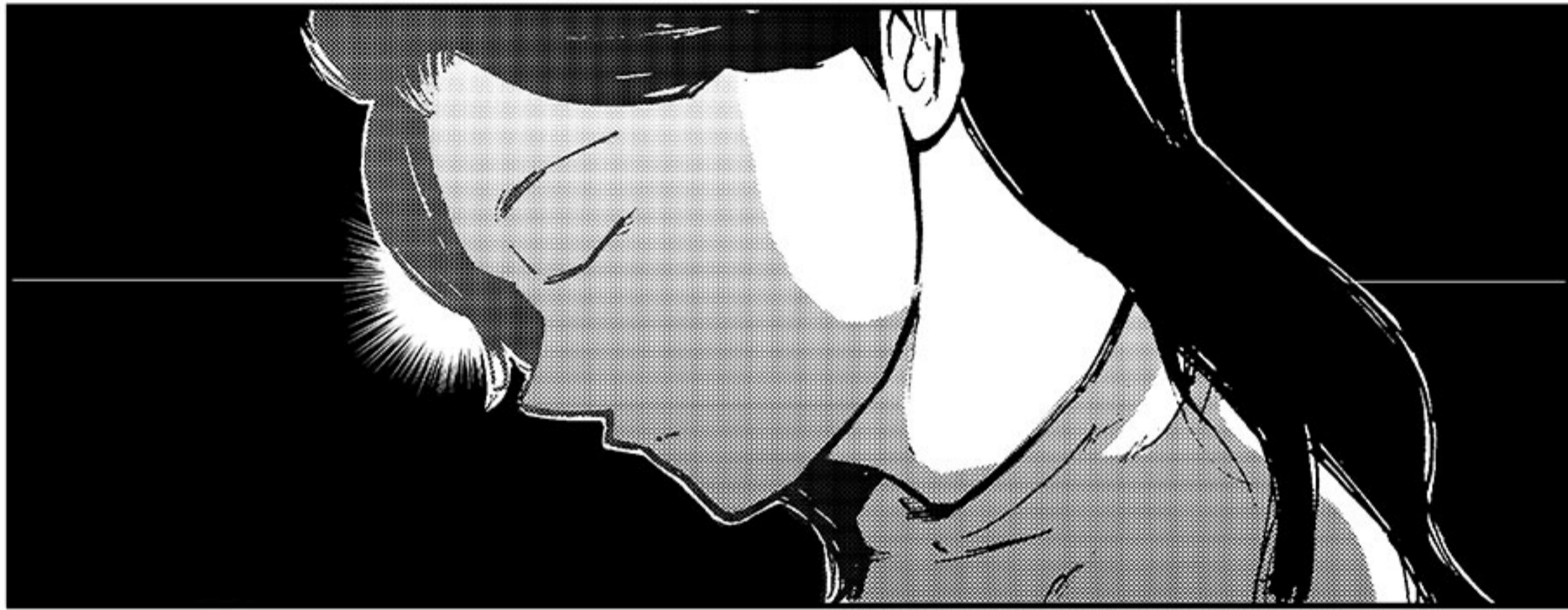


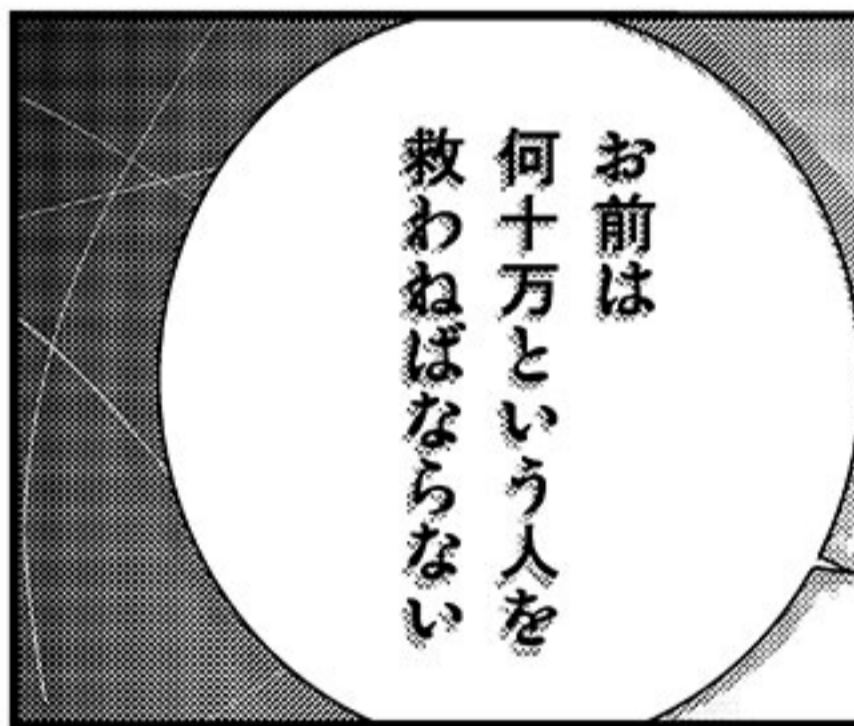
それは
いいですけど

どうして
そんなことを
感じるんですか

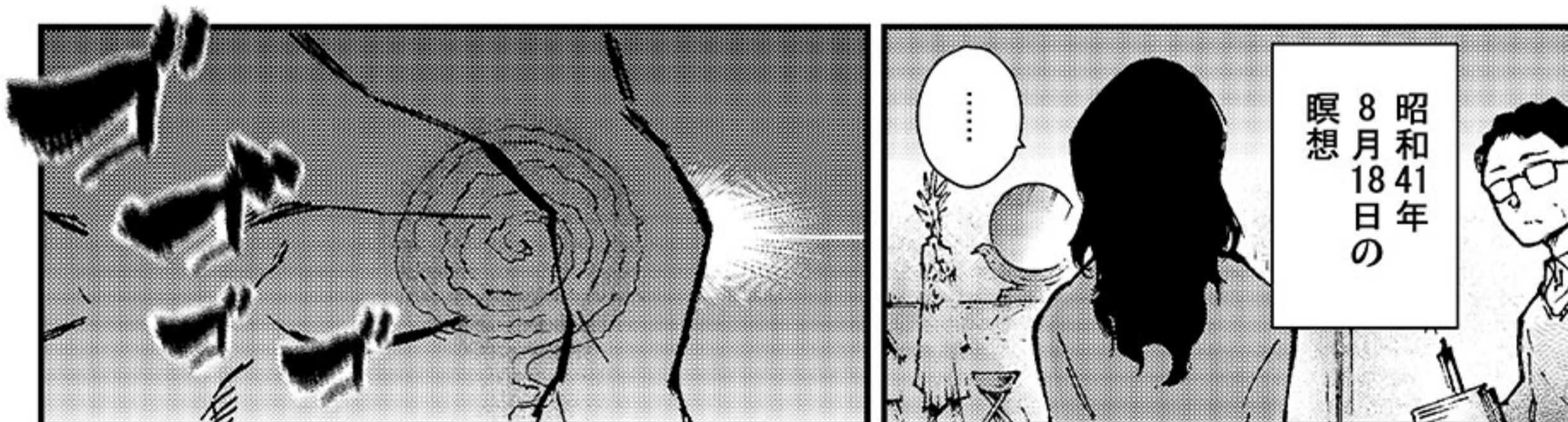
卓巳先生

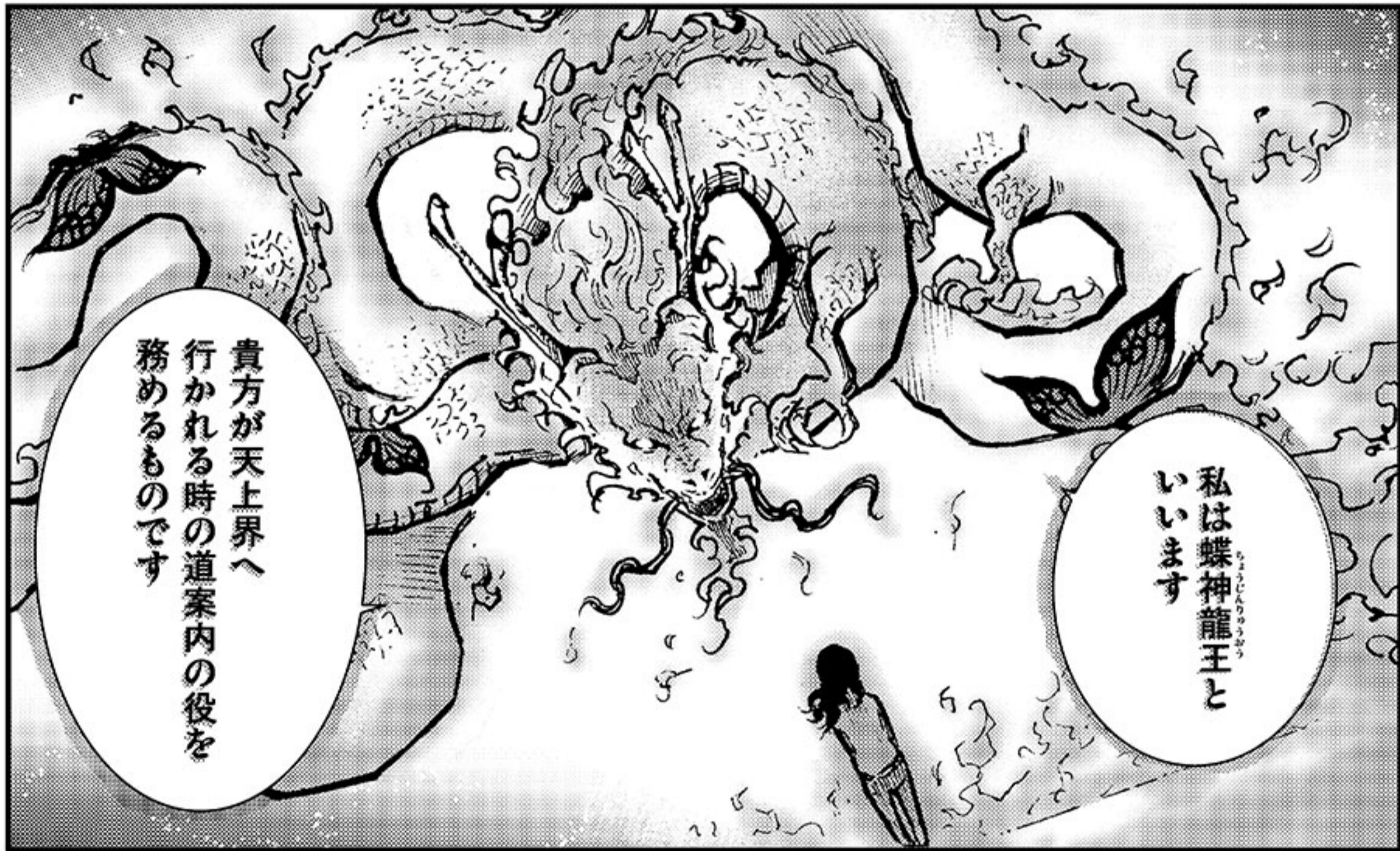
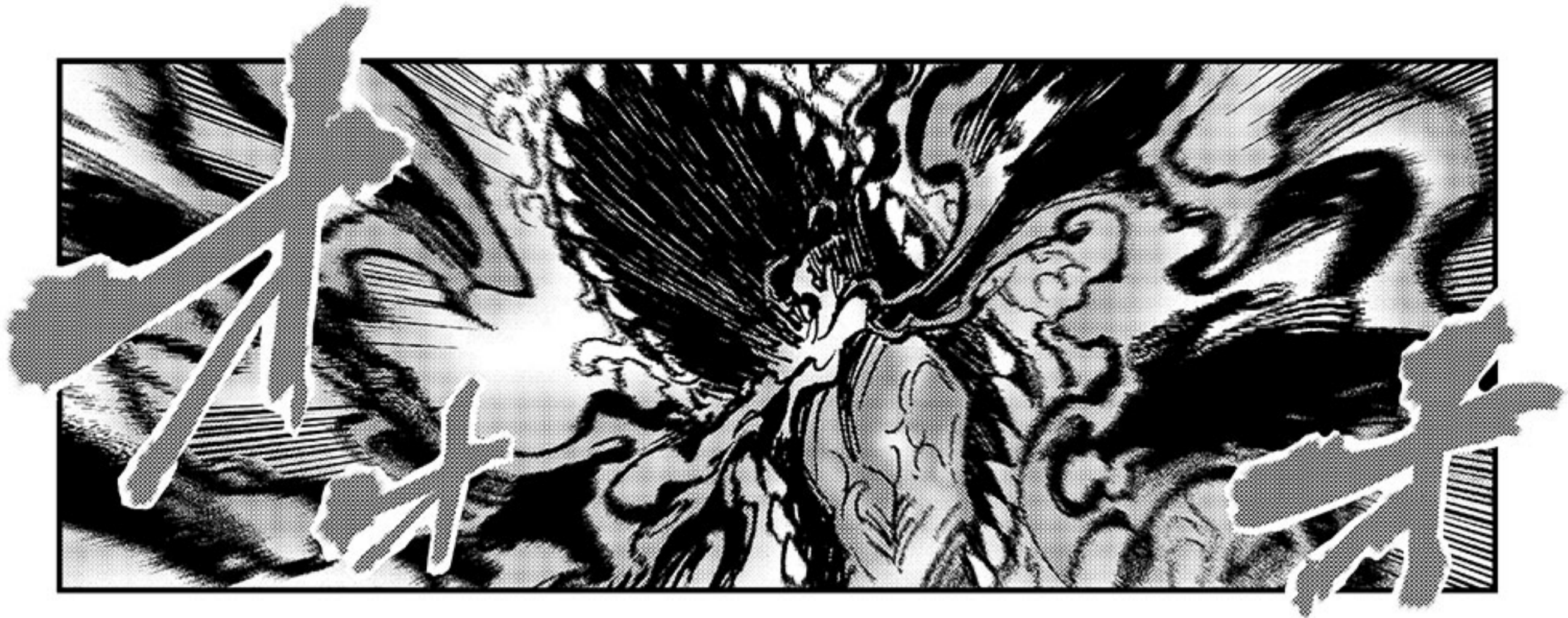






聞けよ 聞け
この身の方は神の御魂ぞ
神の御魂の身にかけて
人とこの世のためとならん
この世のため 人のため
尽くすこと神の道なり
人の道に違ふこと
神の道に背くことなり
水の流れに逆らうは
神の情けにすぎる我身の
心の道を求めてこそ
我身の神の助けあり
信じるは我身の徳
人のためなり







神仏の世界
神仏の言葉…

神仏の文字の
解釈させて
いただきます

大黒天王だいこくてんおうという神が現れます
ここでいう大黒天王だいこくてんおうさまは
大きな袋を肩にかけ
打出の小槌を持った七福神の
一神の大黒さんとは違う神です

この神は身体の
半分くらいが頭で
全身知恵の固まりと
いったようなお姿で
先生に知恵を授ける
“知恵の神”なのです

先生とご縁のある方の中には
先生の体験された
“神々の世界”と同じ世界を
体験された方が何人かいます…



その方々にも
先生と同じように
神仏の世界・神仏の言葉
神仏の文字などを
解釈してくれる

“知恵の神”が
手助けしてくれます
ただしその“知恵の神”は
人によってそれぞれ
異なります

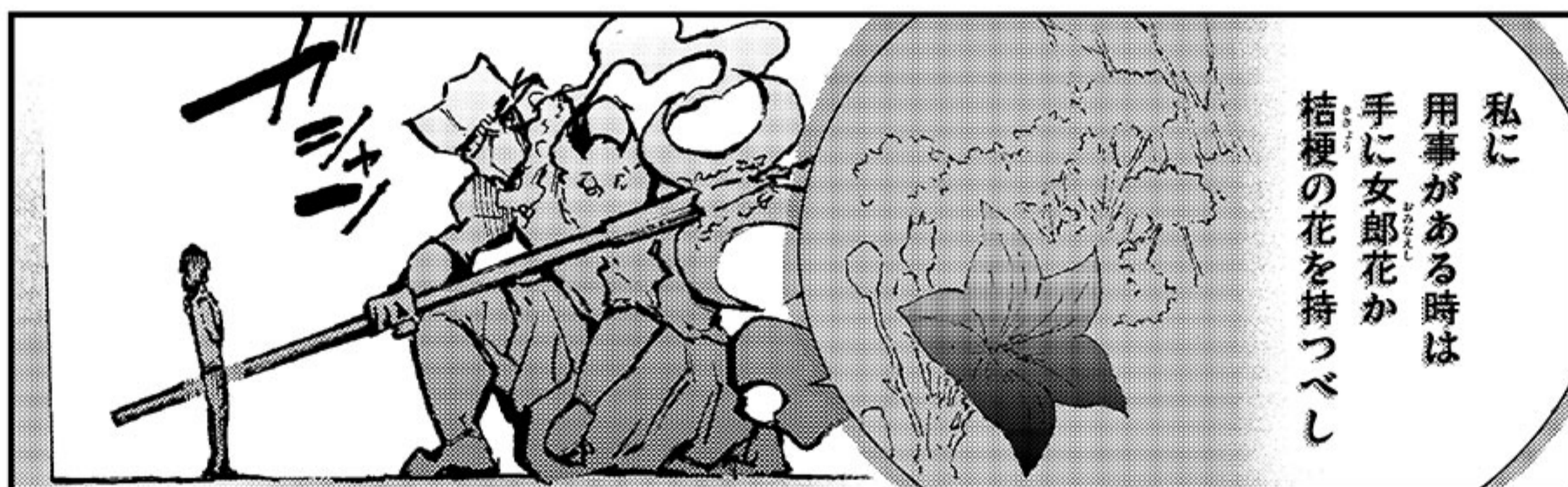
昭和41年
8月21日の
瞑想

!



我が名は
毘沙門天

私は貴方を
護衛する役目である



私に
用事がある時は
手に女郎花か
桔梗の花を持つべし

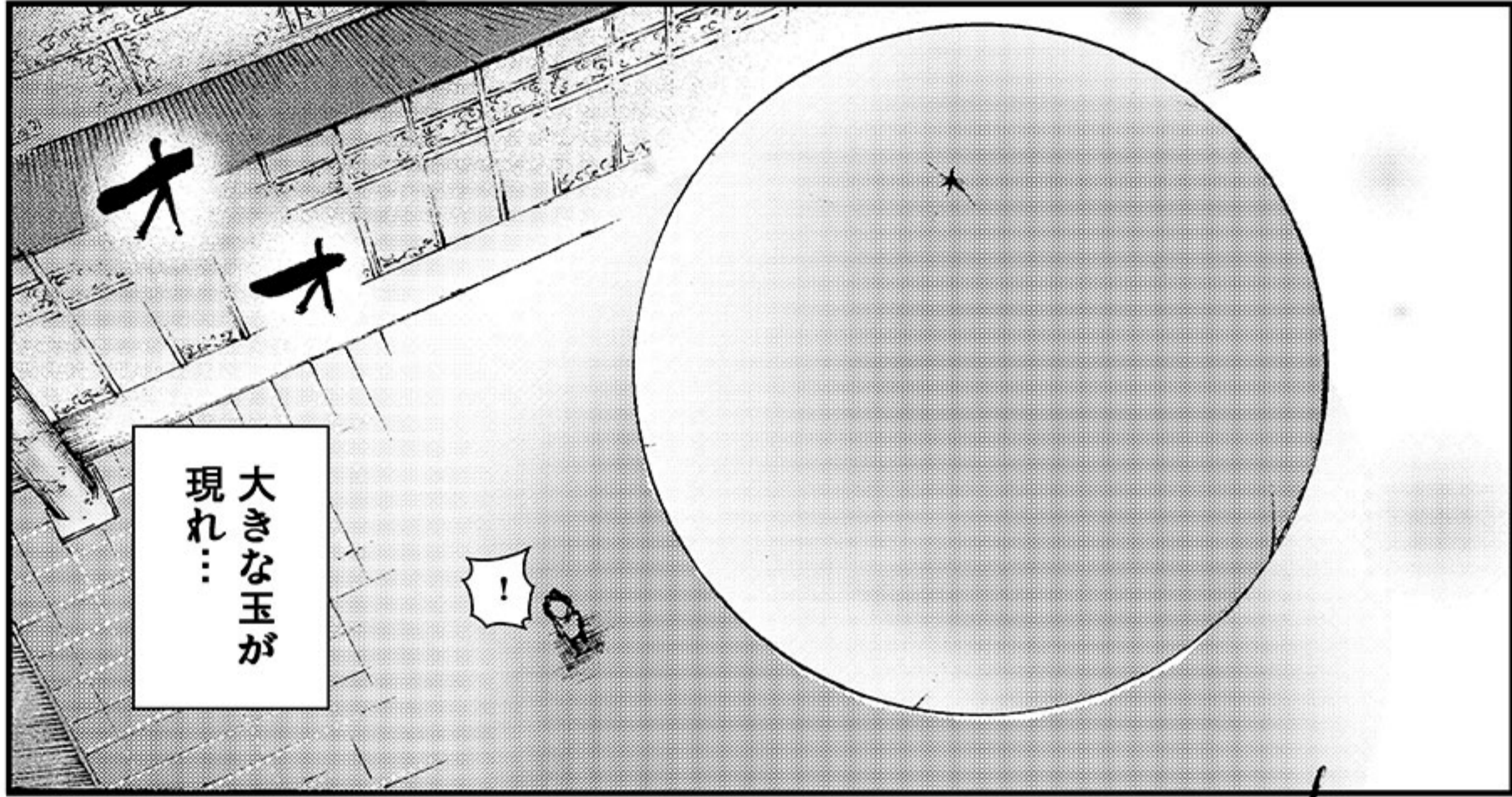


この毘沙門天と
仏教でその妻と
されている

吉祥天が
“天上界”と“三界”に
おける香代子先生の
脇神(側近)です

昭和41年
8月23日の
瞑想

!



大きな玉が
現れ...



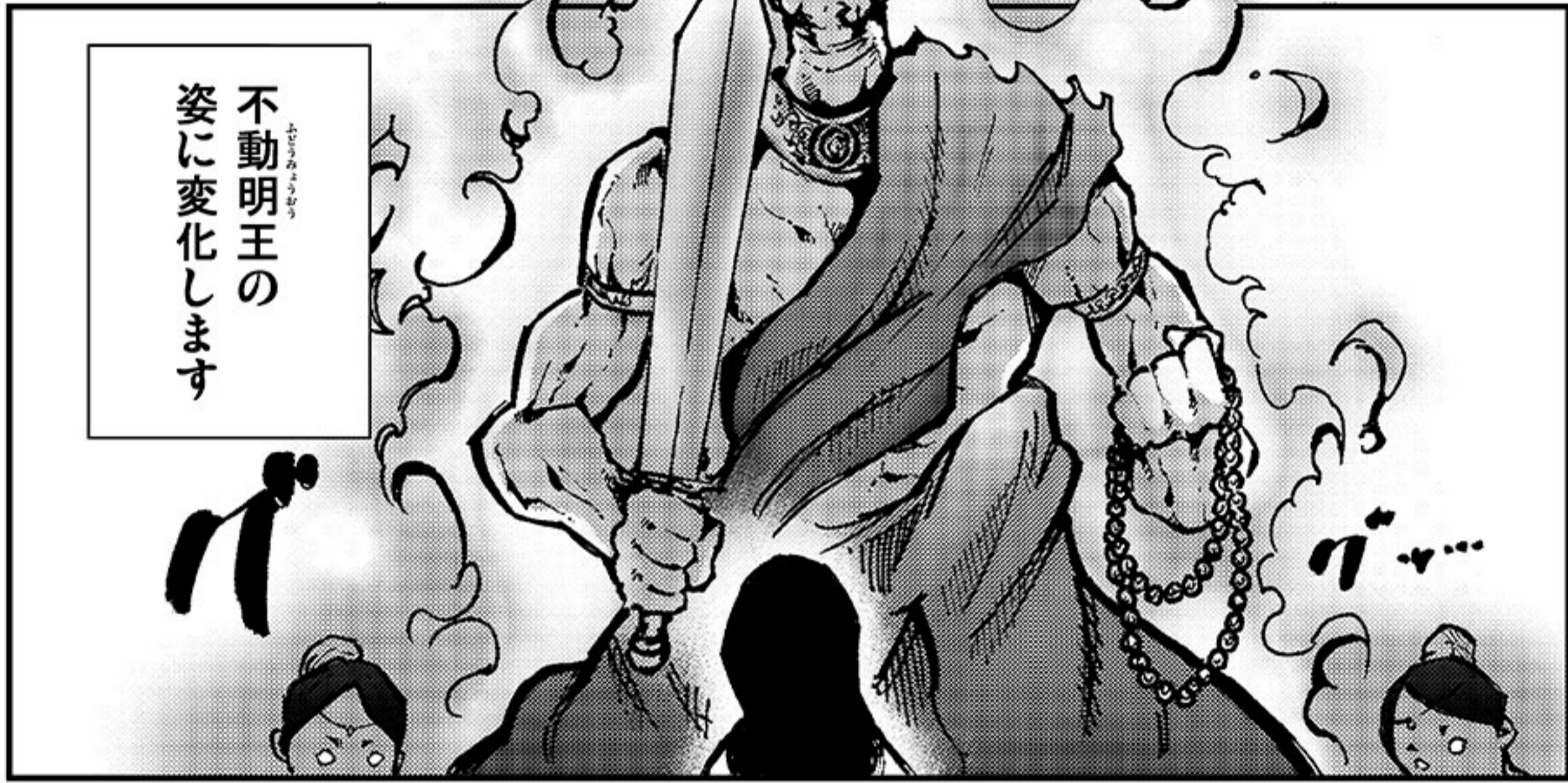
次に童神が
次々と現れ
数えると36体...



大日如来の
姿になります



その36体の
神々が合体して



不動明王の
姿に変化します



不動明王は經典に
よっては36体の
童子を従えるという
説があります

この日の先生の体験から
不動明王は36体の
童子(神)を眷屬に
持っていることが
わかります

より厳密にいいますと
不動明王は36体の
童子が合体した
神なのです



昭和41年
8月23日の
瞑想

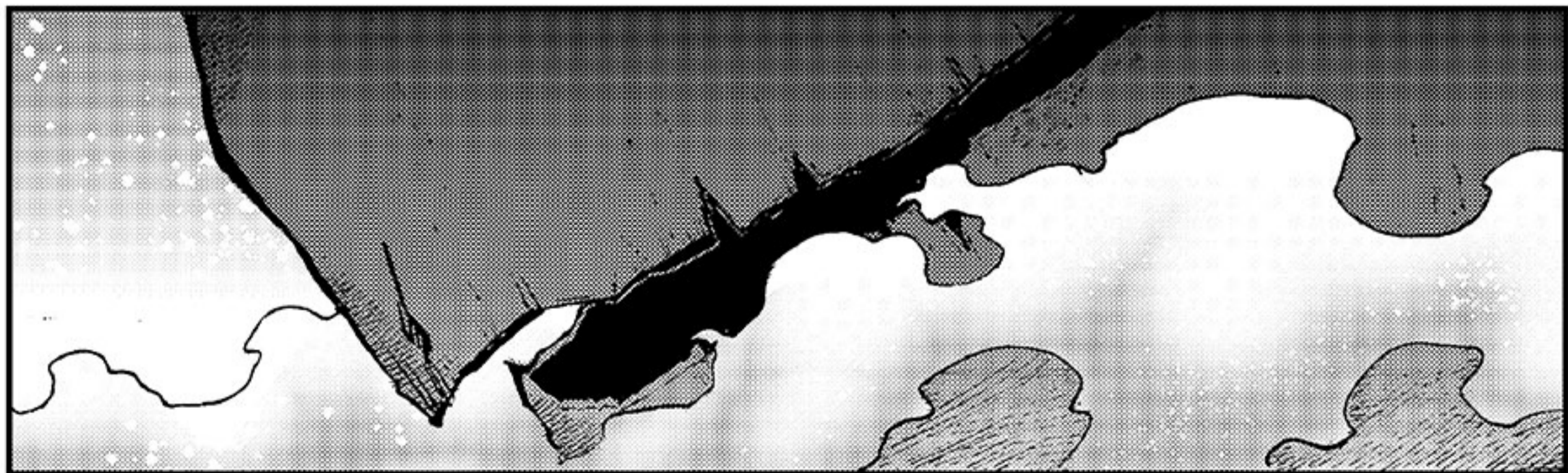
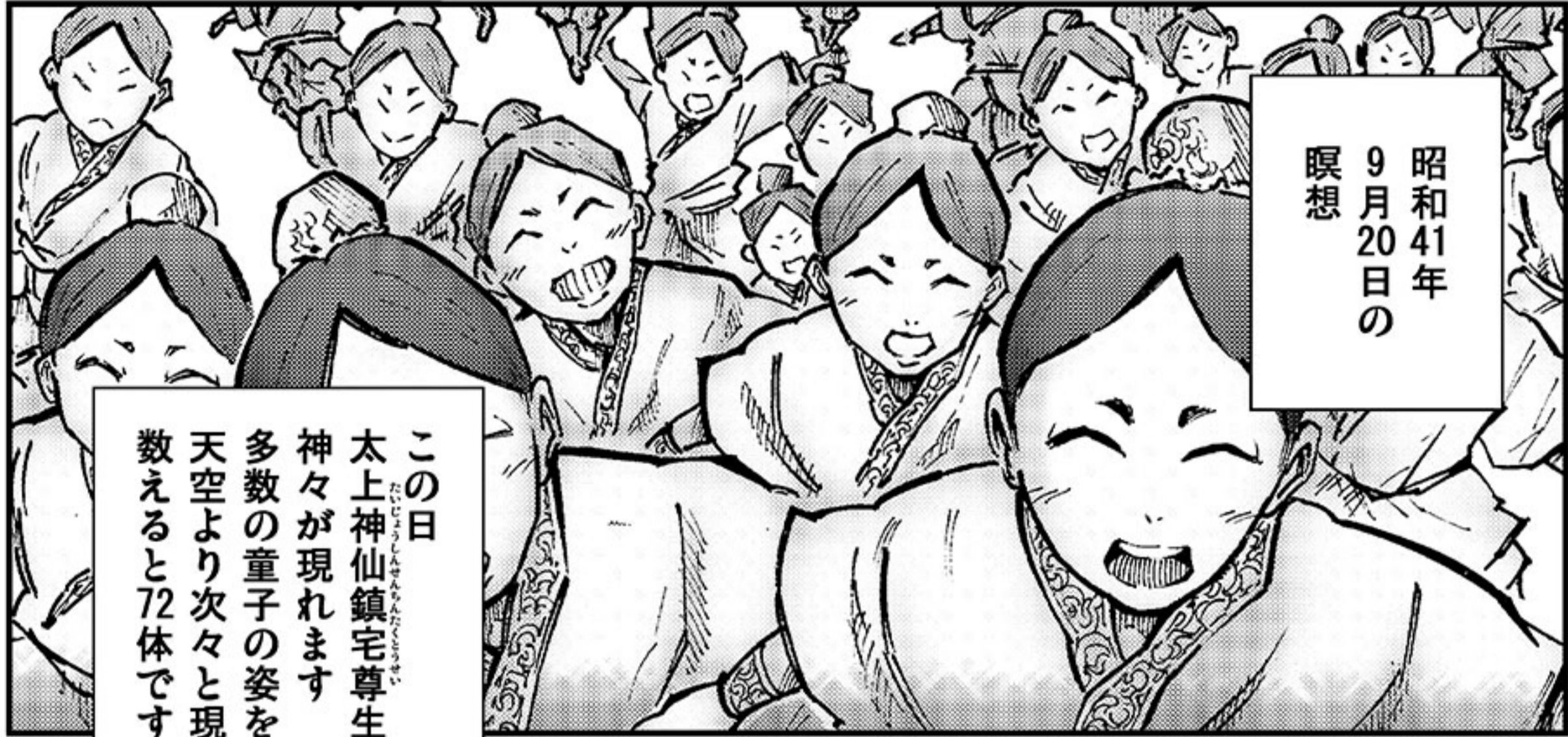


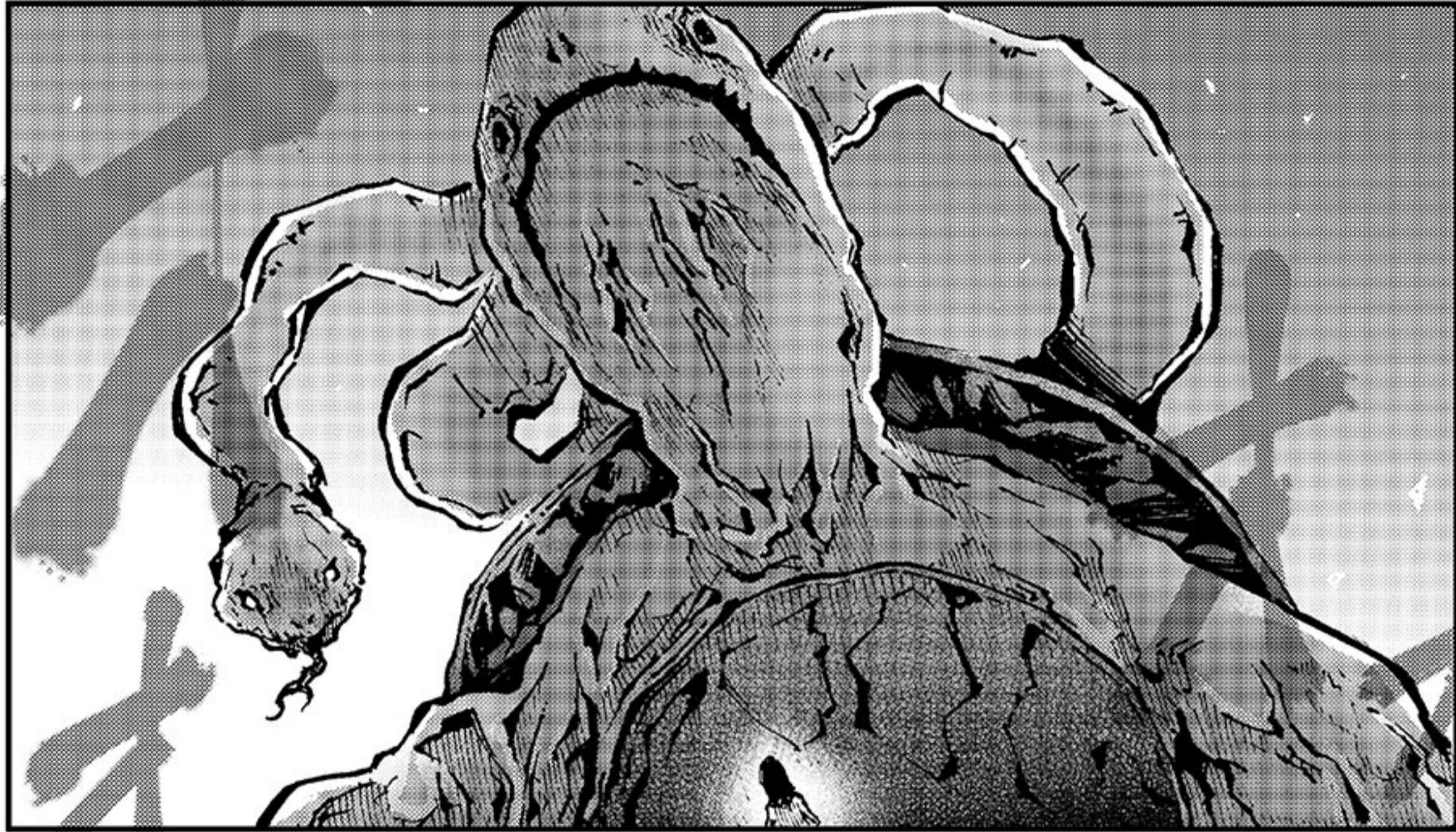
このように先生は
“神々の世界”の
体験を通して

“神々の世界”や
神々のことを
学ばされて
いるのです









この亀と蛇が合体した姿を見たことないか？

それはたしか…

奈良の高松塚古墳の壁画に描かれているよね

そうだそれは「玄武」と呼ばれ四神の一神とされているんだ

四神とは古代中国の天文学・占星術の神獣で天の四方を守護していると考えられているんだよ

そして「玄武」は北の守り神とされている

他の神獣は？

東は「青龍」、西は「白虎」、南は「朱雀」が守護していると考えられている。実は世界の主だった宗教の源流には驚くことにこの72神が存在するんだ

このことは私の本でも説明している。この神が香代子先生の神々のルーツを明らかにしてくれたんだ





ところがそれに伴って香代子先生の雰囲気に変化してきたんだ

ある時はとても優しい感じがしたり

ある時はそばに寄りたいたい怖い雰囲気を感じたりしていつの間にかご主人の手の届かない存在になってしまったんだ……

卓巳先生も寂しい思いをされたんだね



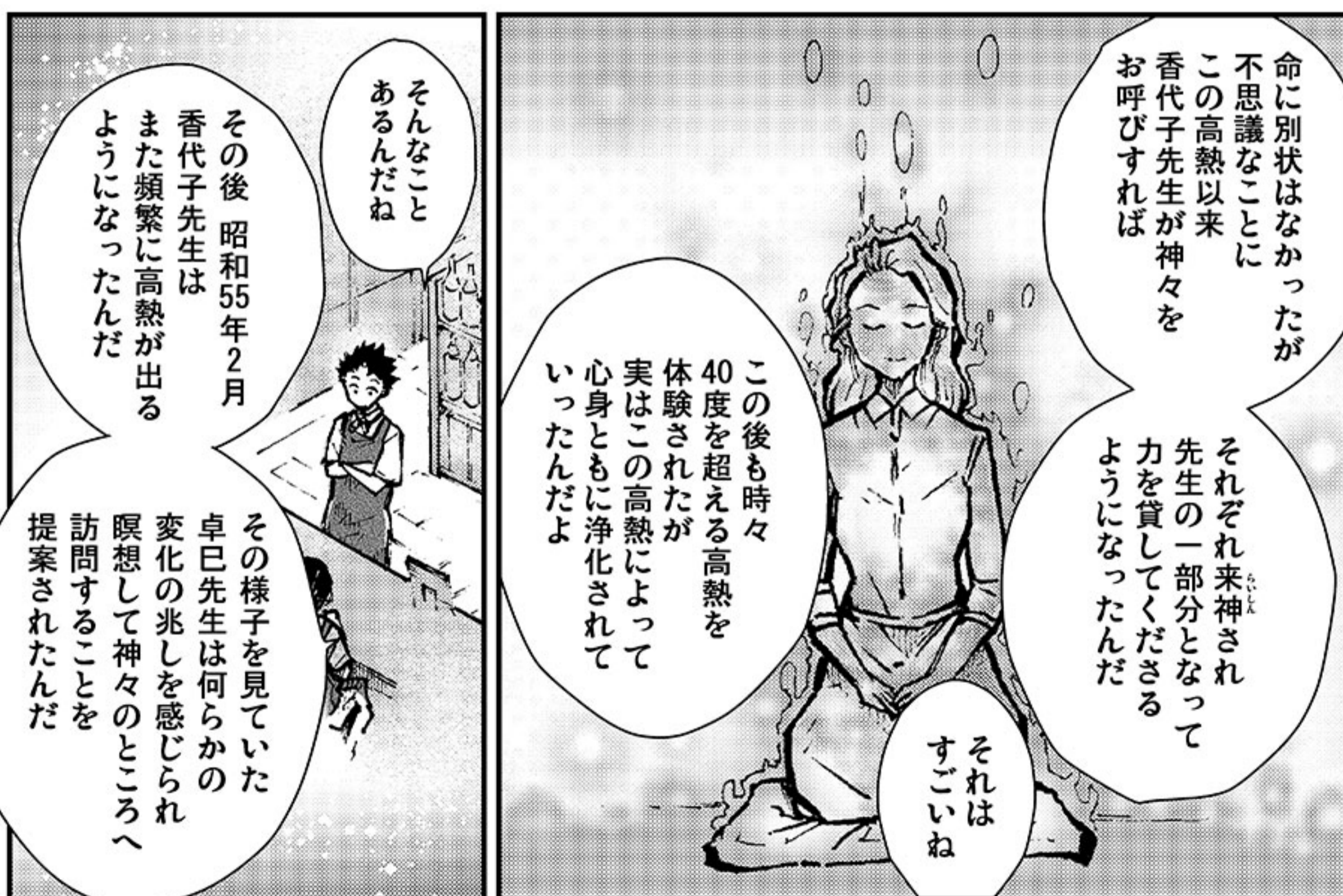
香代子先生に新たな変化が起こったのは

昭和44年6月のことだ

この日の夕方から突然40度以上の高熱を出し

体温計を3本も割る様な状態が5日間も続いたんだ

体温計を割るほどなんて大丈夫だったの？



命に別状はなかったが不思議なことにこの高熱以来香代子先生が神々をお呼びすれば

それぞれ来神され先生の一部分となって力を貸してくださるようになったんだ

それはすごいね

この後も時々40度を超える高熱を体験されたが実はこの高熱によって心身ともに浄化されていったんだよ

そんなことあるんだね

その後昭和55年2月香代子先生はまた頻繁に高熱が出るようになったんだ

その様子を見ていた卓巳先生は何らかの変化の兆しを感じられ瞑想して神々のところへ訪問することを提案されたんだ



場面は
“神々の世界”に
変わります

熱が下がるのを
待って
知恵の神さまである
大黒天王さまの
ところに
訪問されたんだ

それで先生は
神々のところへ
訪問されたの？



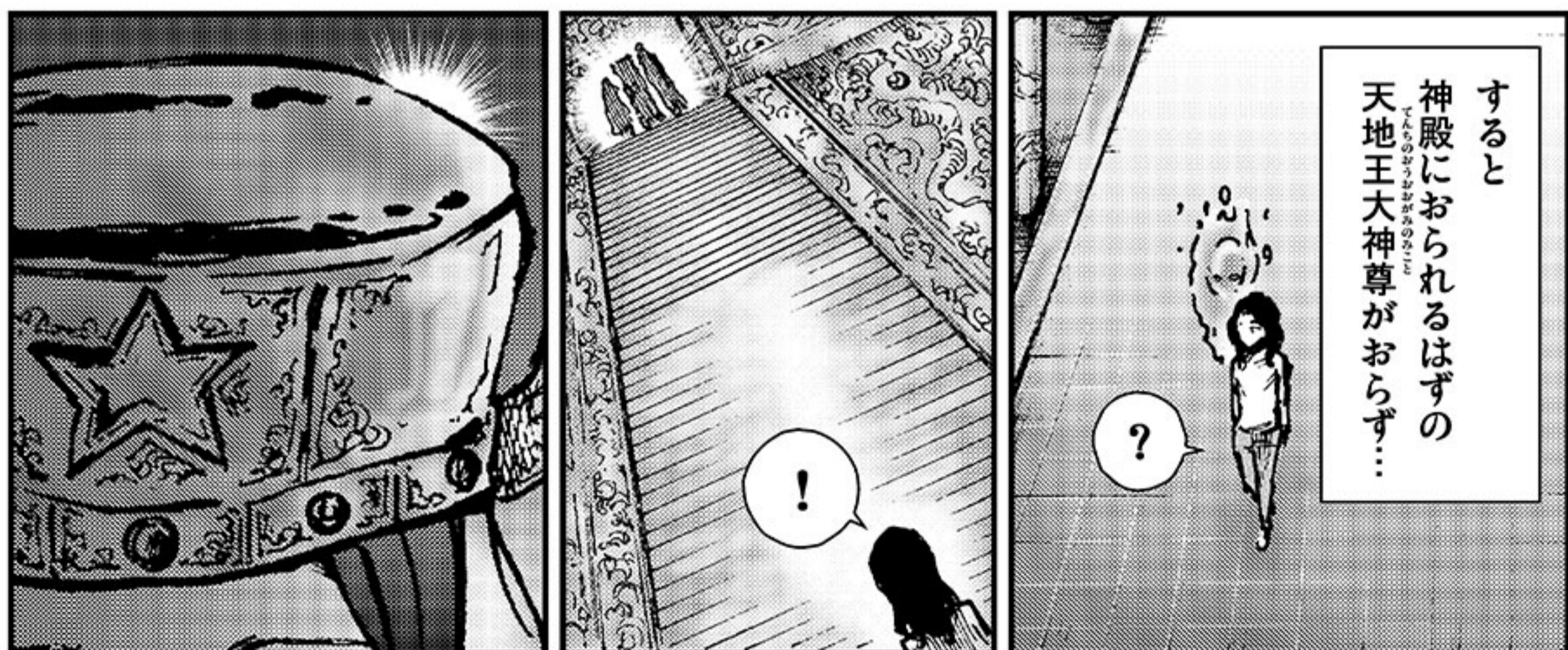
これから
あなた自身の足で
歩き自分の信ずるままに
行動して下さい

天部(天上界)では
あなた様には
もう何も教えることは
ありません…



どうして
私にたいして
“あなた様”という
敬語を使われる
のだろう…
不思議だな…

そう思って
今度は
天地王大神尊の
ところへ向かった…



すると
神殿におられるはずの
天地王大神尊がおらず…

!

?



神殿の中には
なんと…

自分の姿が
ある



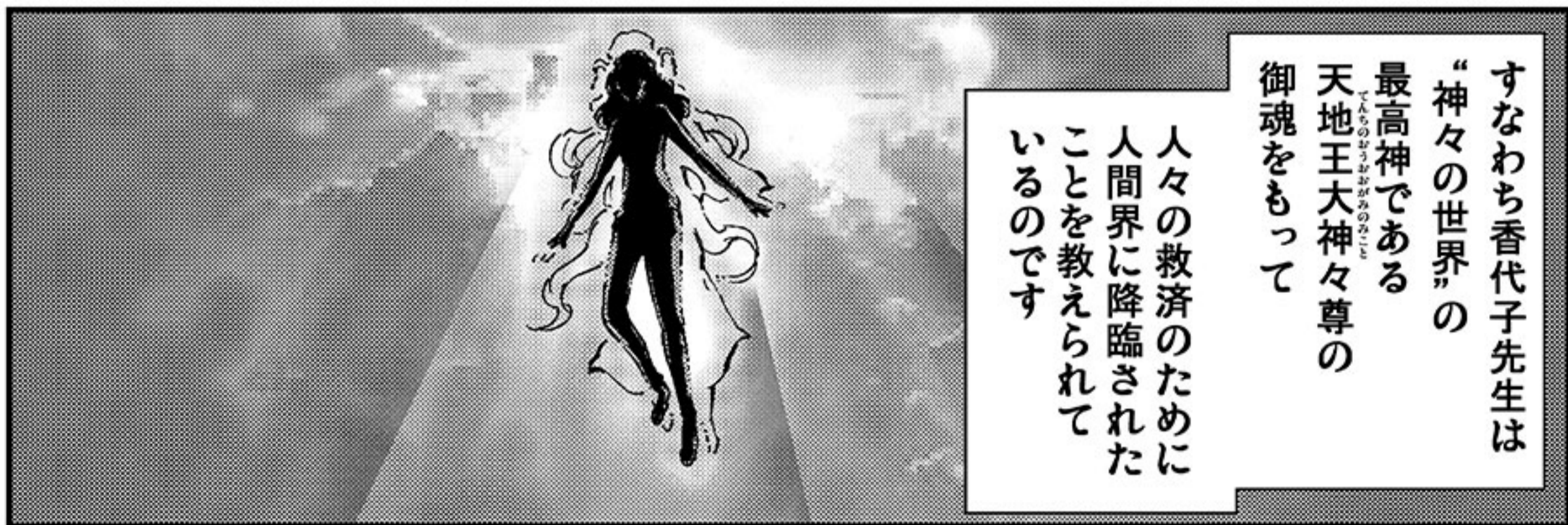
このことは
香代子先生かしろこせんせい 天地王大神々尊
であること…



毘沙門天まで
警護されてて

これは
どういうこと
なのですか？

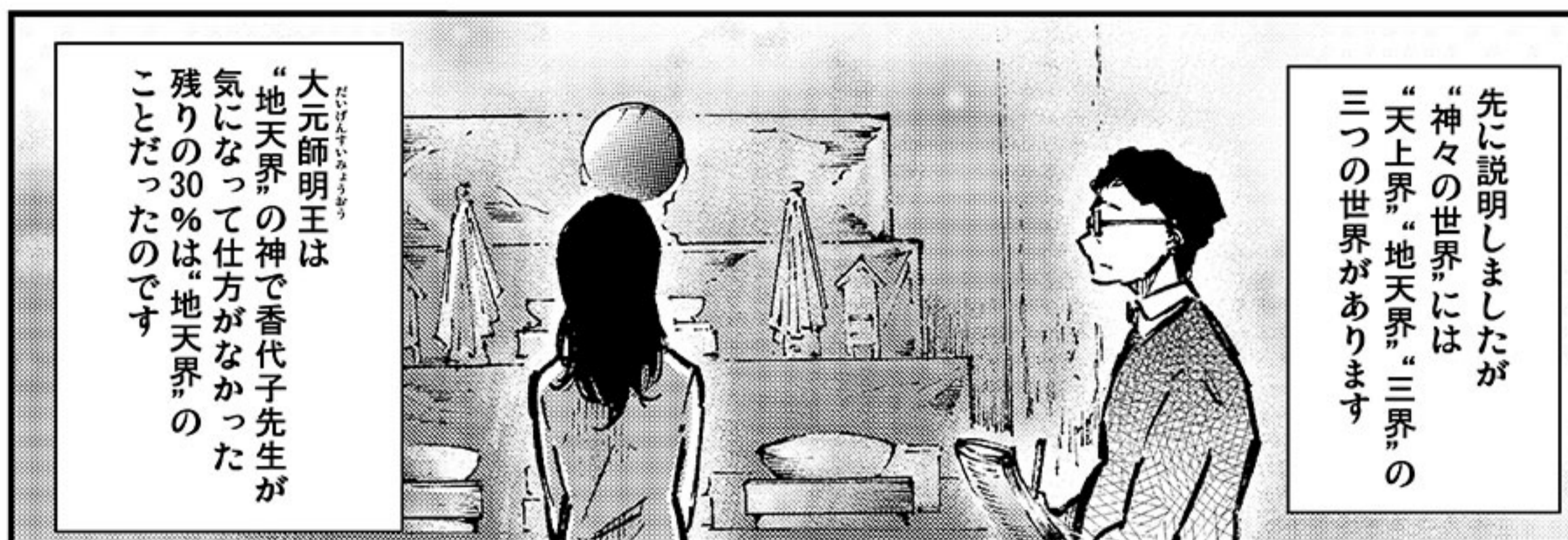
これからは
あそこが
あなたの
御座所です



すなわち香代子先生は
“神々の世界”の
最高神である
天地王大神々尊の
御魂をもって

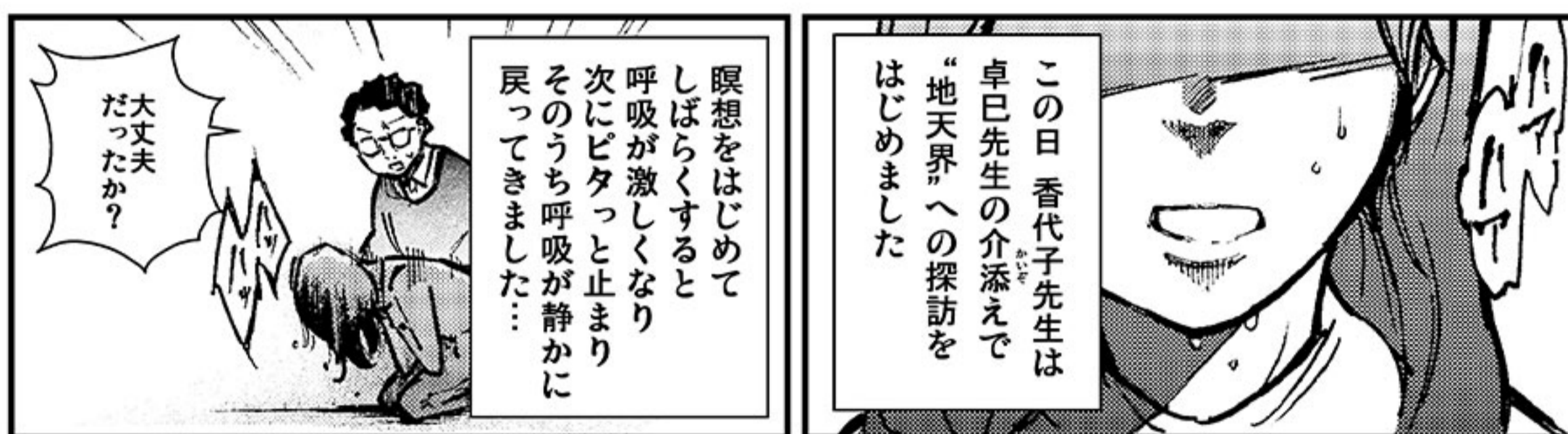
人々の救済のために
人間界に降臨された
ことを教えられて
いるのです





先に説明しましたが
“神々の世界”には
“天界”“地天界”“三界”の
三つの世界があります

大元師明王は
“地天界”の神で香代子先生が
気になって仕方がなかった
残りの30%は“地天界”の
ことだったので



この日 香代子先生は
卓巳先生の介添えで
“地天界”への探訪を
はじめました

瞑想をはじめて
しばらくすると
呼吸が激しくなり
次にピタッと止まり
そのうち呼吸が静かに
戻ってきました…

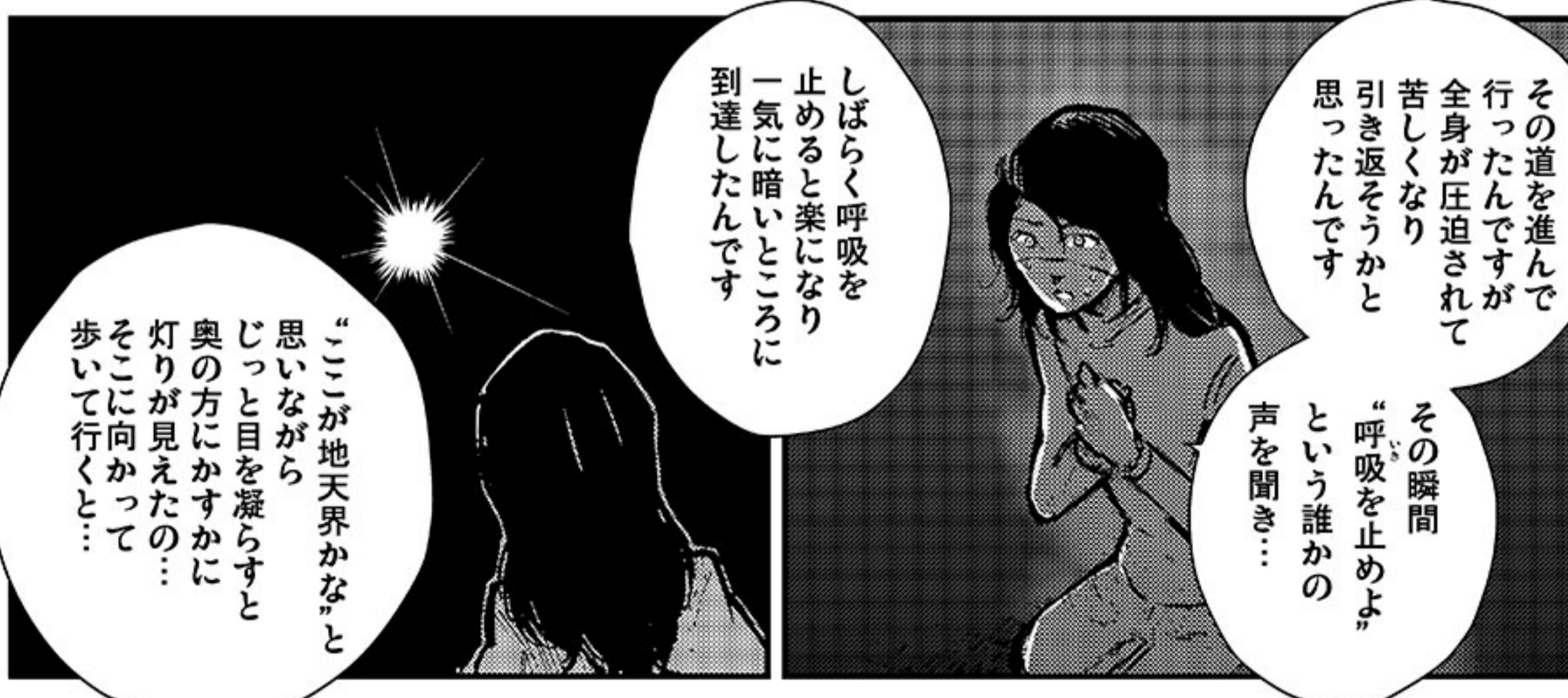


大丈夫
だったか？



それから約1時間
香代子先生は
瞑想から戻りました

瞑想後まず
大黒天王さまを
お呼びしました
すると地天界への
道を教えて
いただいたんです



その道を進んで
行ったんですが
全身が圧迫されて
苦しくなり
引き返そうかと
思ったんです

その瞬間
“呼吸を止めよ”
という誰かの
声を聞き…

しばらく呼吸を
止めると楽になり
一気に暗いところに
到達したんです

“ここが地天界かな”と
思いながら
じっと目を凝らすと
奥の方にかすかに
灯りが見えたの…
そこに向かって
歩いて行くと…



道の両側に
松明たいまつを持った
人たちが並び

足元を照らして
くれているんです



さらに進むと
門があり
奥には寺院の様な
建物が見えるの



門の扉を開いて
入って行くと…



寺院の中から
右手に長い“鎌”の様な
杖を持ち左手に
童神の手を引いた

一見女神の様な方が
立たれていたんです



私にはとても
抱ききれません

どなた様
でしょうか

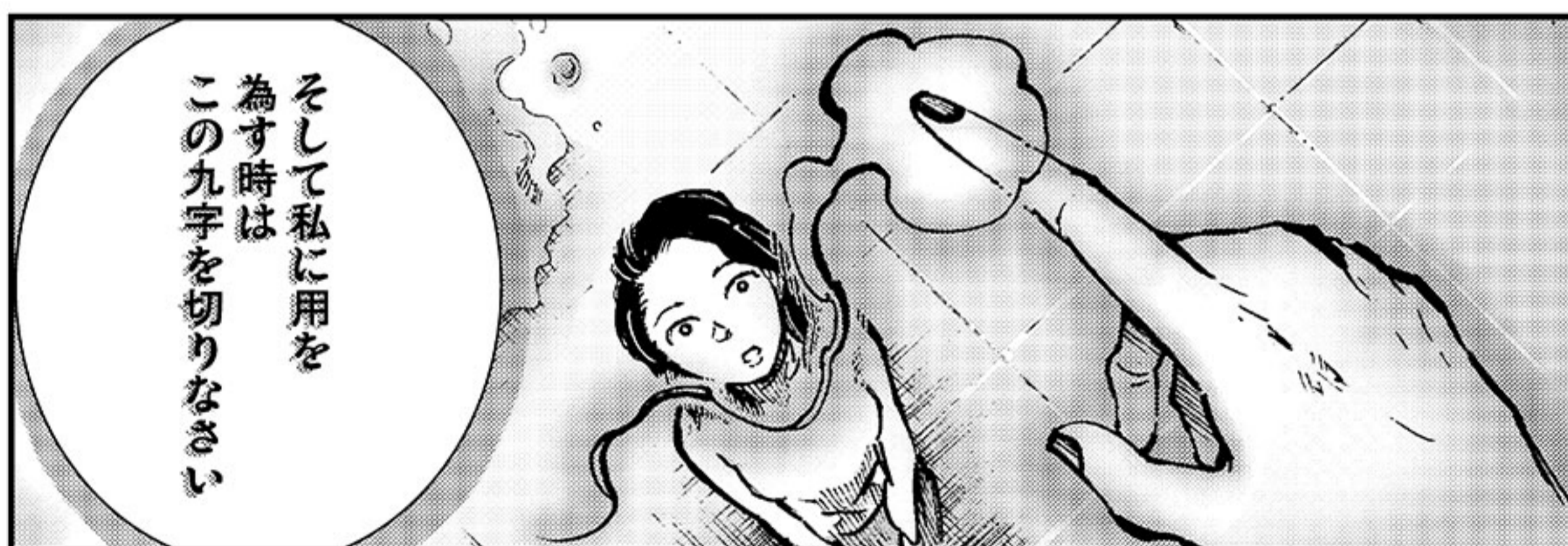
私はこの霊界の
一切を支配している
地現菩薩じげんぼさつといひます

ここは霊界という所です
霊界の案内は後目に
致しませう……
私の身体を抱いて
みなさい



人を救うには
先ず見極めが
大事です

誰彼だれかれなしに
無駄をしない
ように……



そして私に用を
為す時は
この九字を切りなさい



先生は
地現菩薩じげんぼさつさまに
九字の切り方を
教えてもらったと
いうけど

九字っていうのは
いったい何なの？



“臨兵闘者皆陣列前行”

中国の道家で呪力を
持つとされた
九つの漢字なんだ

これが日本に伝えられ
陰陽道・密教・修験道などで
護身のための呪文と
されたんだ



この言葉を唱えながら
手で印を結ぶか
指を剣になぞらえて空中に
線を描くことで

災いから身を守ると
信じられてきたんだよ

そうなんだ

先生が教えられた九文字は
九つの文字とは関係なく
空中に手で線を描く
ものなんだ

先生は地現菩薩さま
だけでなく
多くの神々から直接
様々な九字の切り方を
教えられているんだよ



神さまが直接
教えてくれるんだね
それはすごい…でも
地現菩薩さまという
神さまは本当に
いらっしゃるの？

ふつう霊界には
閻魔大王さまが
いらっしゃること
なっているよね

そうなんだ
私も疑問に思って
仏教事典を
見たんだが…

そこにも
載っていないんだよ
ところが後に
エジプトの靈感の王
“オシリス”の姿を
見て驚いたよ

その姿は地現菩薩さまと
そっくりなんだ



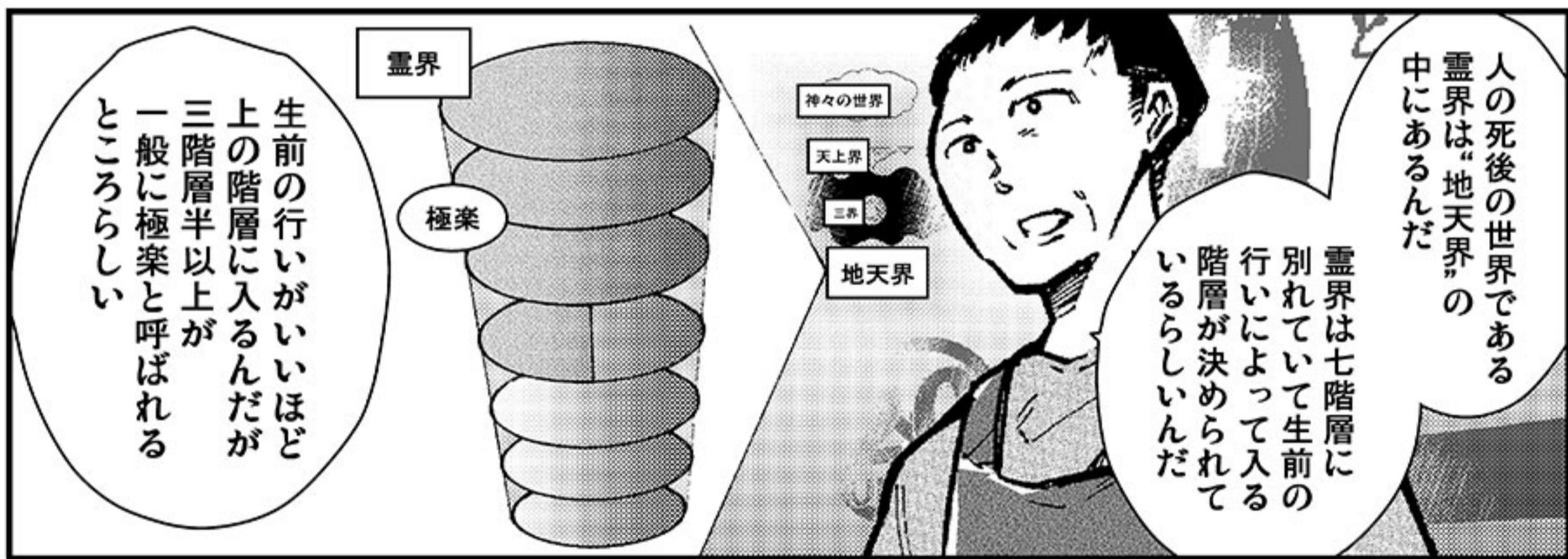
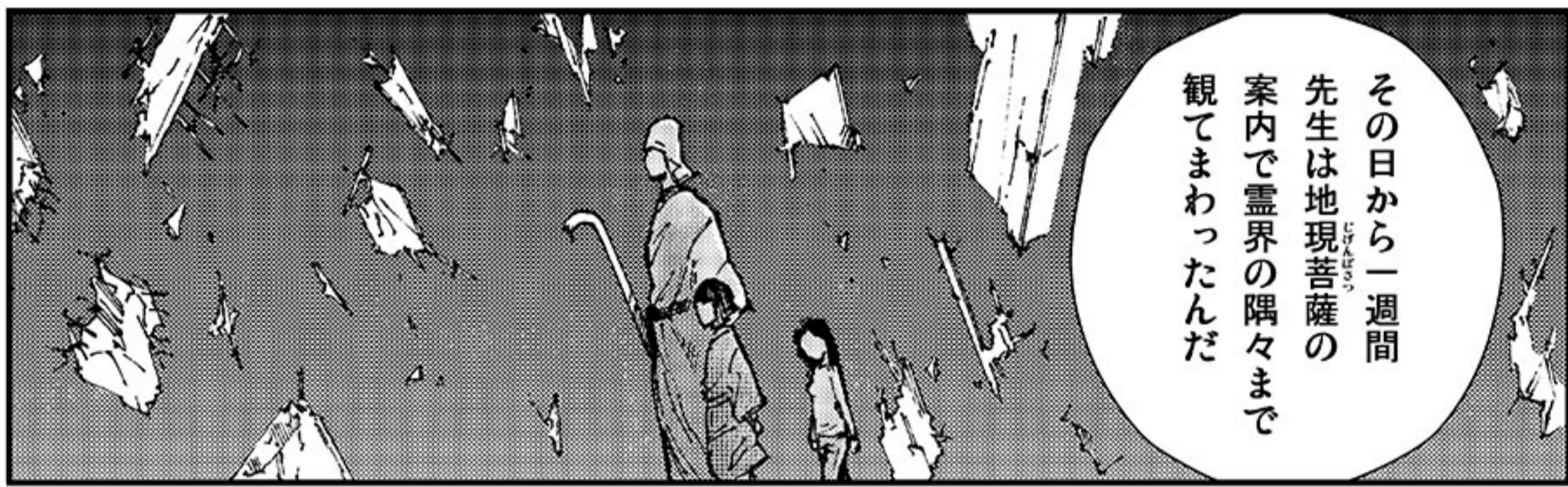
さっきの私の本でも
説明しているが
エジプトの神イシスは
天地王大神（最高神）と
同じ神で

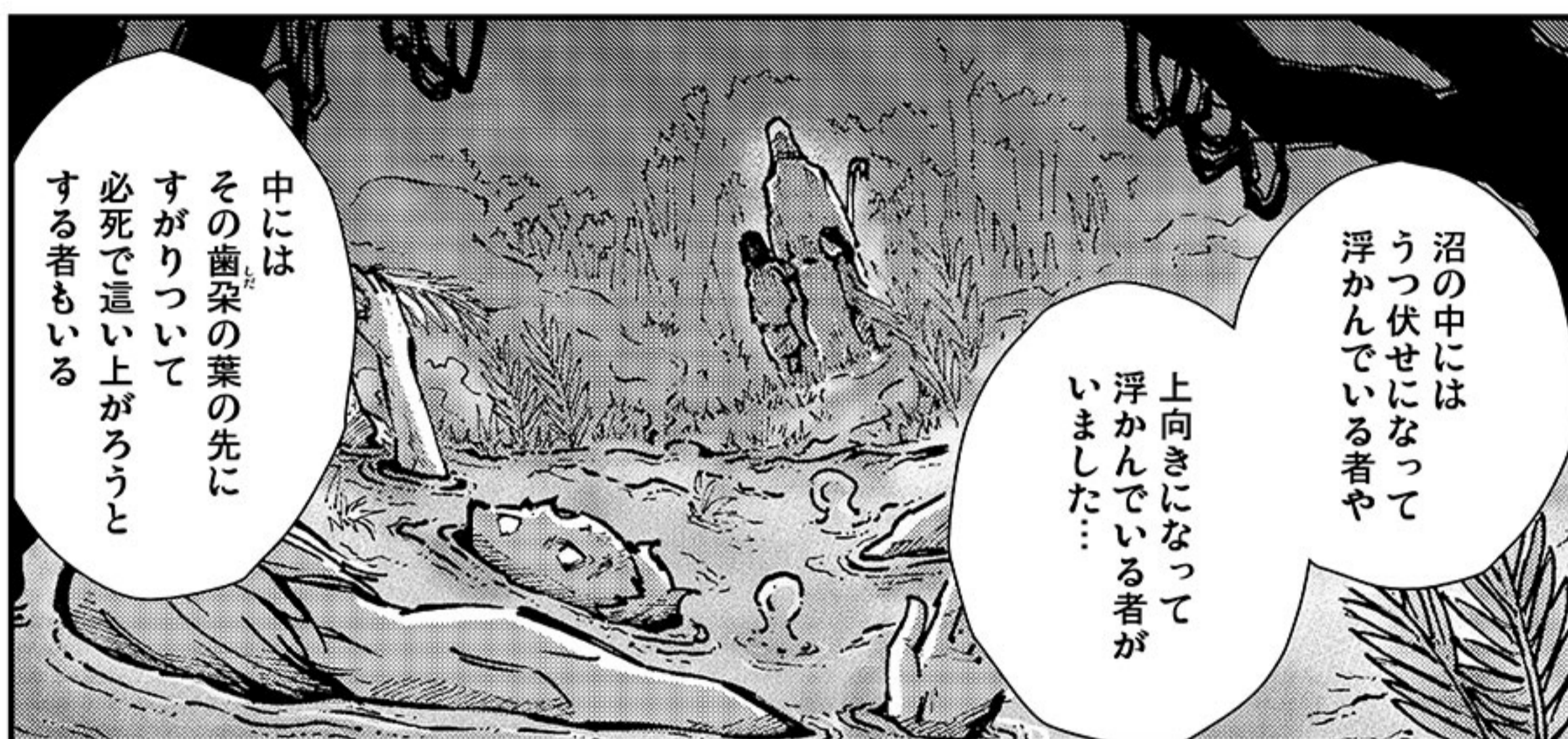
ラーは72神と
同じ神で
オシリスは
地現菩薩と
同じ神なんだ

イシス
虚無の神
豊穡神

ラー
太陽神
天と地の創造者

エジプトの神さまと
同じ神さまなの？







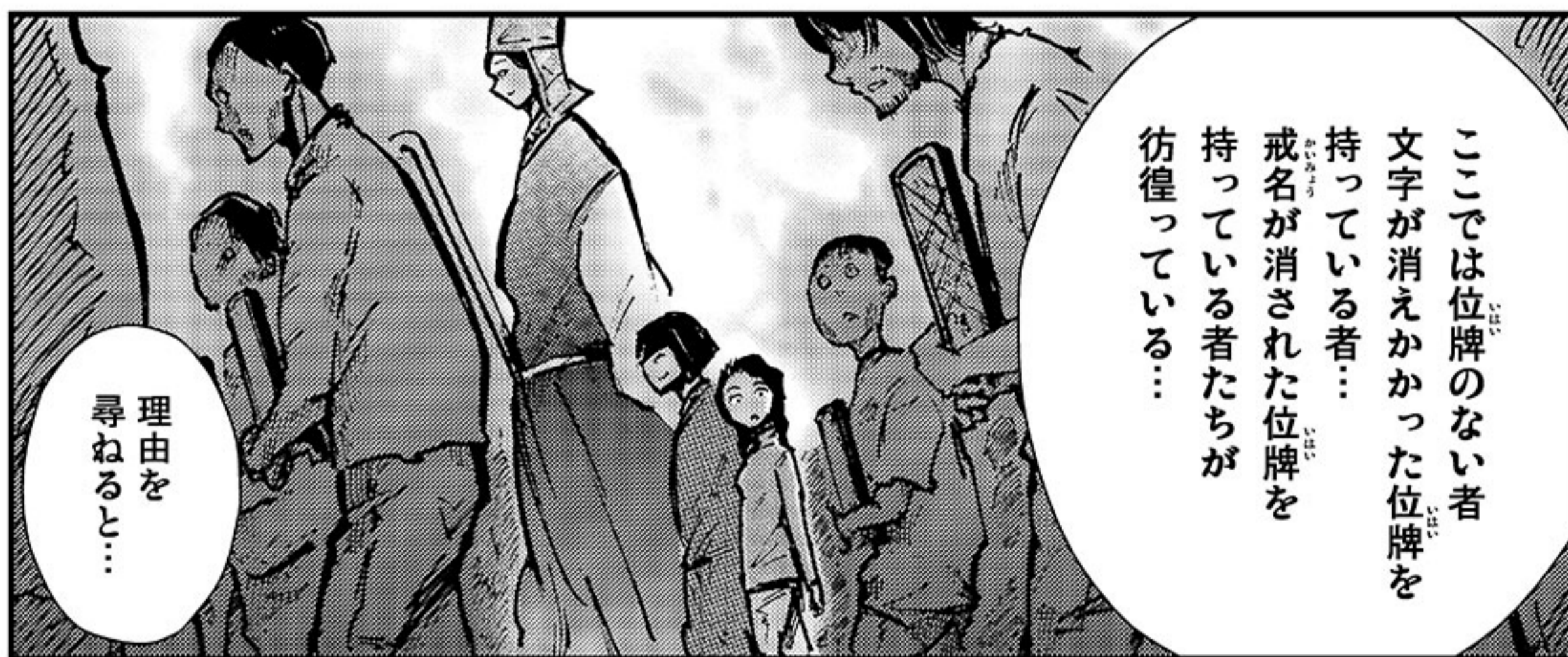
湿気が多く
寒々とした
ところです

この岸壁を
掻きむしって…



苦しんでいる
者たちがいる

次に
荒野のような
殺伐とした
広い場所に出た



ここでは位牌のない者
文字が消えかかった位牌を
持っている者…
戒名が消された位牌を
持っている者たちが
彷徨っている…

理由を
尋ねると…



生前の生き様に
似合わない過分な戒名を
もらったばかりに
神さまの怒りにふれた

…と言っていた

七階層では自分が
死んだことを自覚できず
どうしてこんなところに
いるんだろうと
疑問を思っている人たちが
大勢います

この人たちは
死んでからも
迷い続けて
いるんです

それは大変な
ところだな



陽を見ることが
できずにいる
中には“人生を悔やみます”
と言って涙する者も
いました

それは
かわいそうに…



次は六階層へ
お連れいただきました

この階層では一族が
集まって修業を
しているところが
あります…

そして湿原や岩山や
原生林があります
この階層の人たちは
まるで樹海の中で迷い
道標を探すことができません…



水子の霊も
霊界にいるのか？

石の階段が見えた
この階段は水子の霊の
世界に行くための
階段なんです…



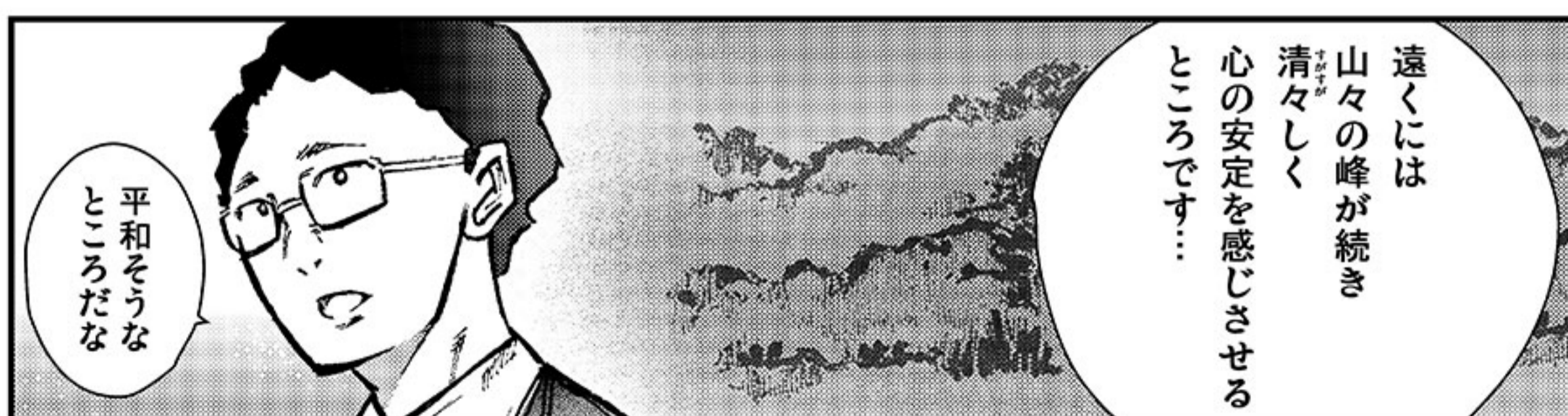
次は五階層に
お連れいただきました

ここは空気が乾燥して…
人の動きにも
活気があります



そうなの
この五階層では
個人個人に座る場所が
与えられているんです

また
日々の祈りのために
集まる所もあるんです





次は三階層へ
お連れ
いただきました

すると私の周りに
多くの人たちが
集まってきたんです

そして心が安堵し
晴れやかで一族と共に
安住していることを
それぞれ述べられました…



なるほど
幸せそうだな

三階層の上のほうへ行くと
ここはさっきの場所とは
また違った雰囲気でした…
この場所の人たちは
不満という言葉は
露ほどもありません

日々の尊さ重さを感じ
悟りへの道を日々求め
感謝している方々
ばかりです

そうかそれは
立派な方々ばかり
だな…



次は二階層へ
お連れいただき
ました

ある方は
私の顔を見るなり

“心すみやかに
感謝いたします
自分たちは神々の教えを受け
民の者に神々の尊さを説き
知らせている者です…
心を清くして
ここに安住しています”
…と言われました

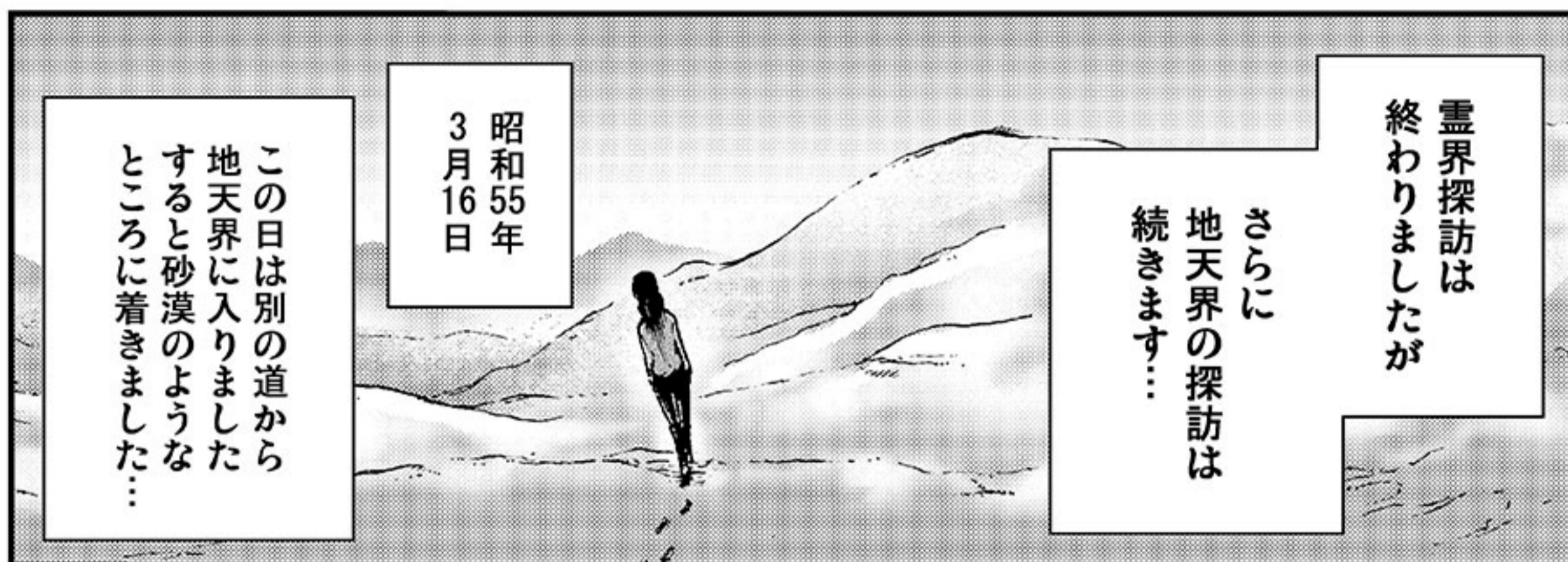


へーそうか
この階層の方々は
神の教えを伝える方々が
いるんだな

そのようですね
次は一階層へ
お連れいただき
ました

ここには
功績に輝いている
者たちばかりです

そうか



霊界探訪は
終わりましたが

さらに
地天界の探訪は
続きます…

昭和55年
3月16日

この日は別の道から
地天界に入りました
すると砂漠のような
ところに着きました…



そこには
恐い顔をした神々が
並んでおられます

私たちは
荒神アラカミと云います
これが荒神の
全員です



私は荒法師アラカミ明王
と云います

各種 荒神の
元締めです

私が管轄している
ところへ案内しますので
ついてきて下さい

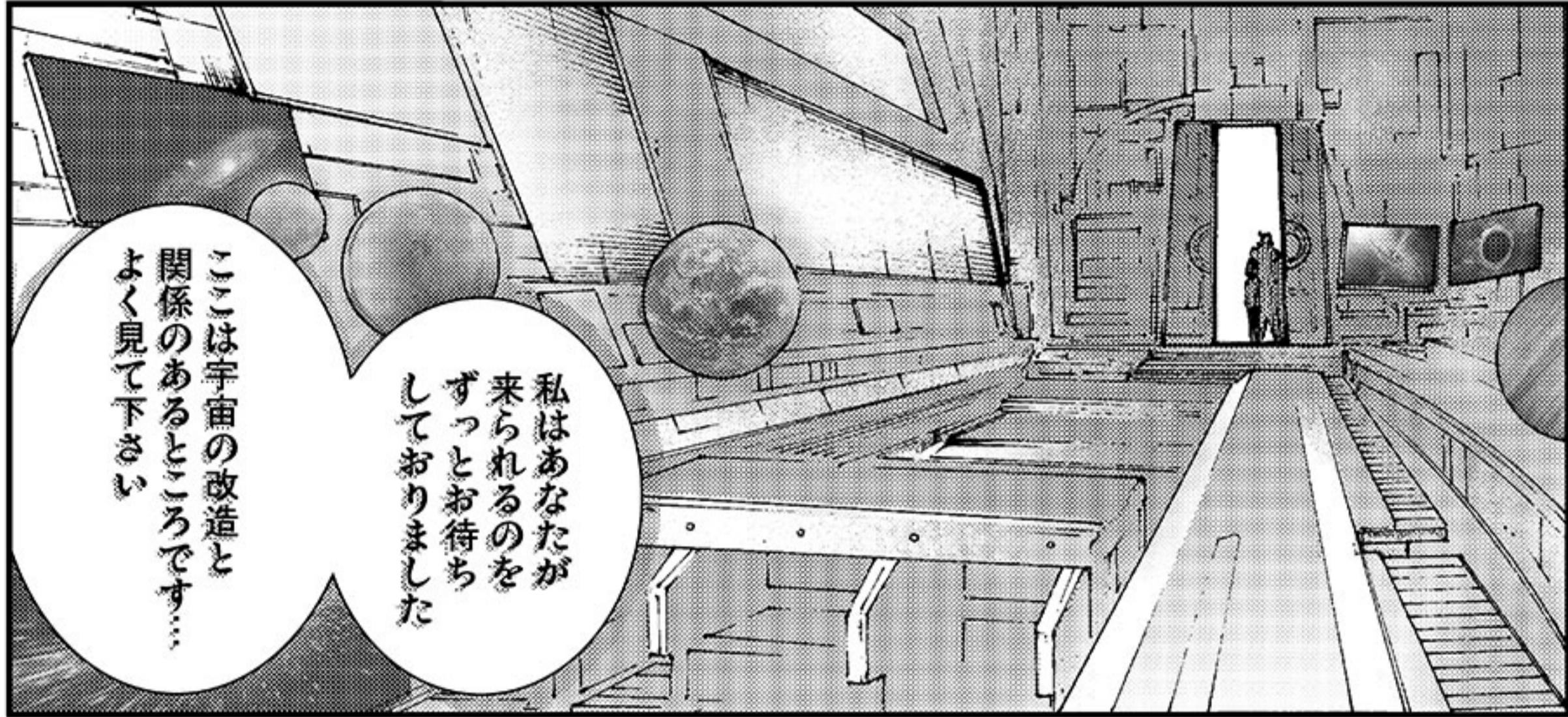


どうぞ
お入り下さい

ここは貴方が
お入りになる
ところです

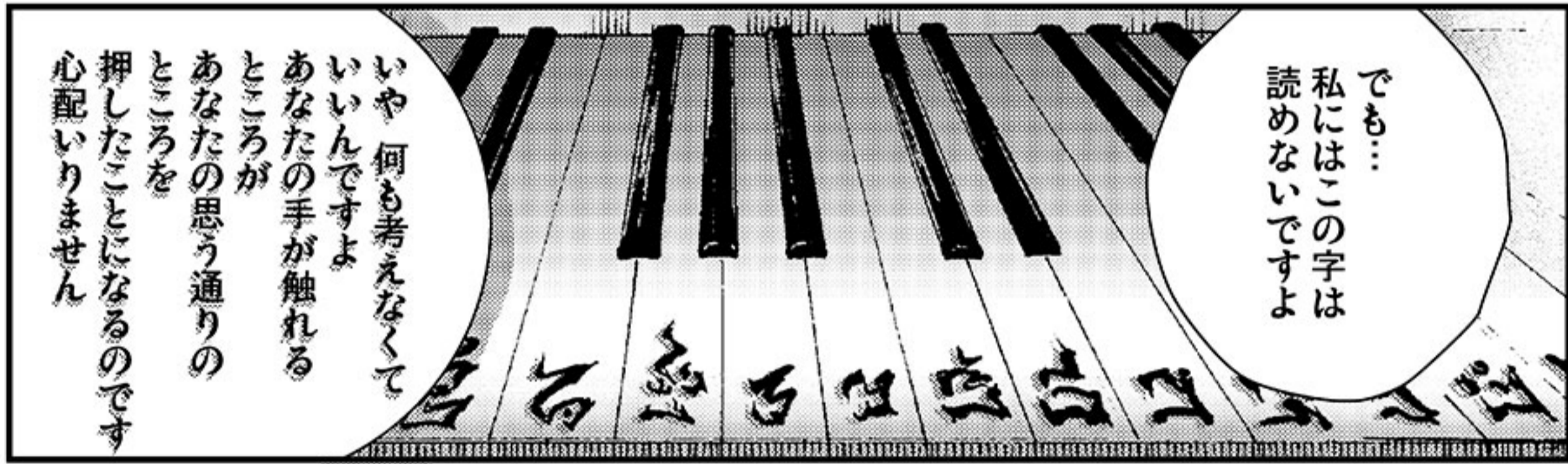
いずれここが
必要になる時が
きます

こちら
です



ここは宇宙の改造と関係のあるところですよ…よく見て下さい

私はあなたが来られるのをずっとお待ちしております



でも…私にはこの字は読めないですよ

いや何も考えなくていいんですよ
あなたの手が触れるところがあなたの思う通りのところを
押したことになるのです
心配いりません



ここは神々が何万年も前に創られ

私が管理をしています

今後あなた以外の者が入ることは許されません



昭和55年
3月18日

この日 地天界に向かうと金色夜叉明王という神が出現する…

江戸時代に商家で使用されていた帳簿を大福帳という

この神はそれによく似た細長い帳面を左手に抱えている



私は天と地をつなぐ
連絡の役割をする
ものです

大地とあらゆる
ところに眷属を
配置しているので

大地の出来事は
すべて知っております
ことの善も悪も
人の生も死もすべてです



昭和55年
3月19日

この日
浅芽明王という
神が現れる
毘沙門天に良く似た
お姿で

私は浅芽明王と
いいます

美しい宮殿に
住んでおられます



昭和55年
3月31日

この日も邪魔され
進めないのです

大黒天王と釈迦如来に
お供を依頼し
一緒に地天界へと
向かうことにしました
ところが途中まで
行ったところで…



昭和55年
3月20日

この日も地天界に
向かったが
右手に矛を持った
鎧武者のような方が

右に行けば右
左に行けば左へと移動し
前に進むことができず
やむなく引き返しました



無から有を生む
役割を持っています

何も無い所にも
あらゆる芽を出すことが
できます
あなたが必要とされる時は
おおせつけ下さい



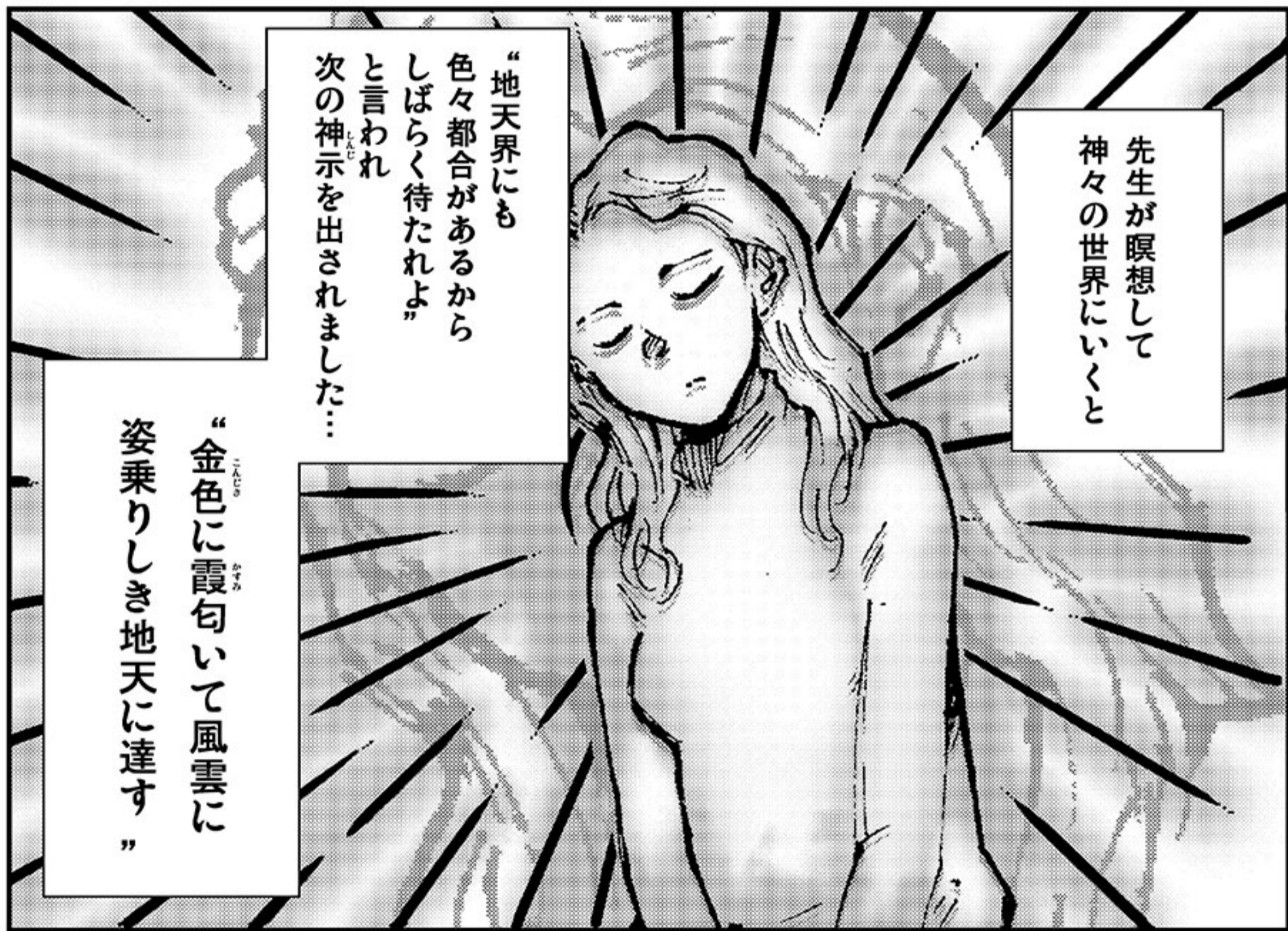
そうですね
聞いてみましょう

何時になったら
成道を許される
のか…
神々に尋ねて
みてはどうか？



誠に申し訳ないが
私たちはこれから先へ
入ることは
許されていません

このように言い
大黒天王と釈迦如来は
引き返してしまっ
たのです



先生が瞑想して
神々の世界にいくと

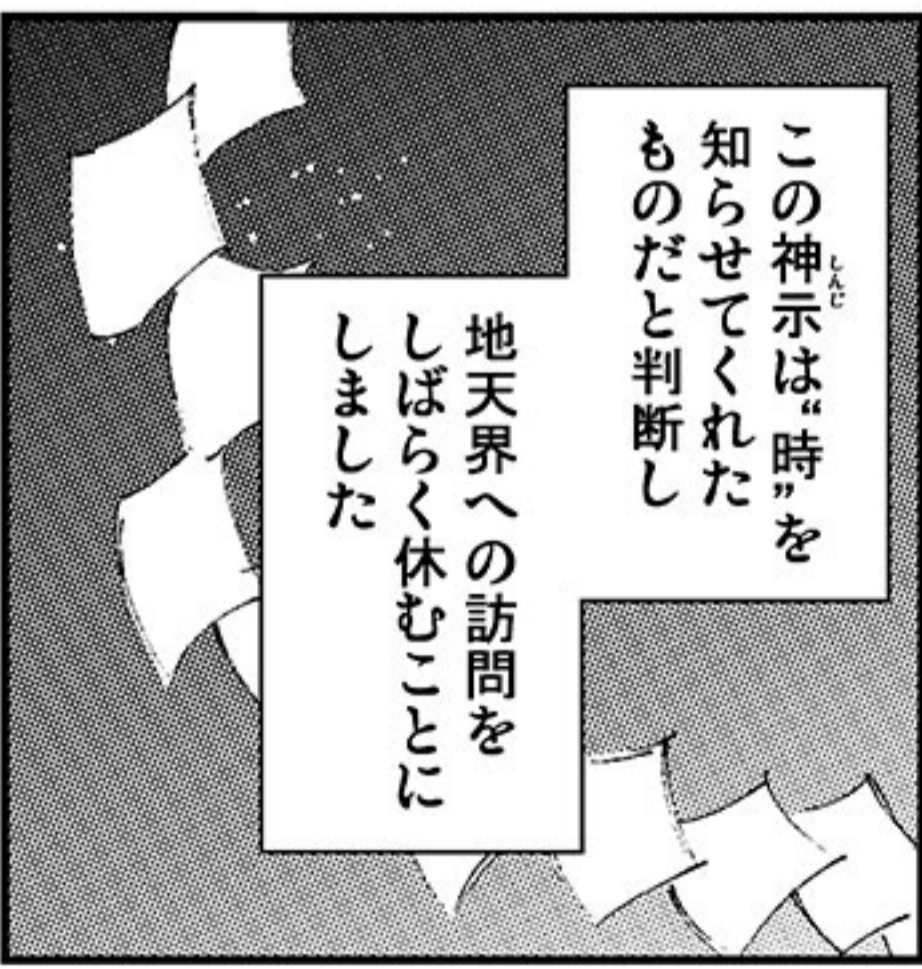
“地天界にも
色々都合があるから
しばらく待たれよ”
と言われ
次の神示を出されました…

“金色に霞匂いて風雲に
姿乗りしき地天に達す”



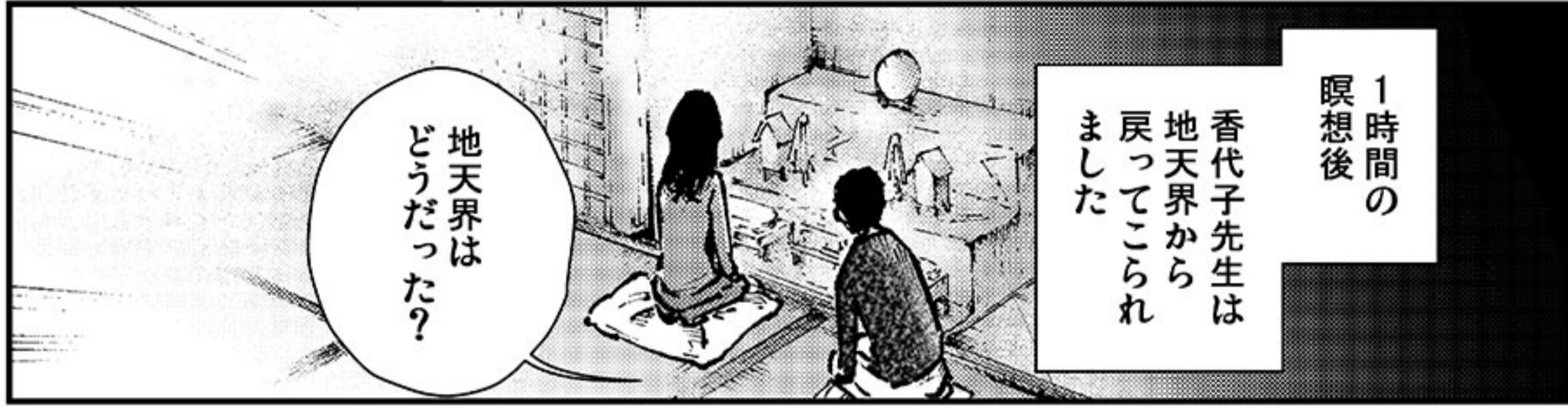
昭和55年
4月20日

ようやく霞が金色に
輝く季節が訪れた
この日の23時50分
地天界へ向かった…



この神示は“時”を
知らせてくれた
ものだと判断し

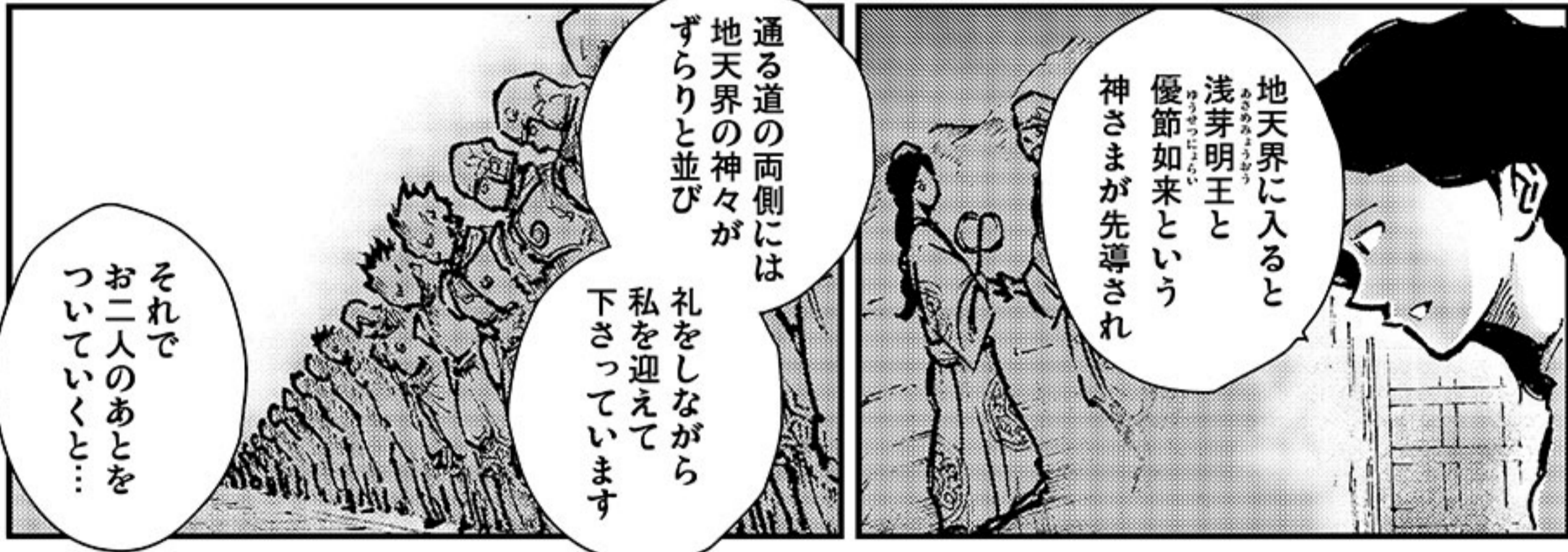
地天界への訪問を
しばらく休むこと
にしました



1時間の
瞑想後

香代子先生は
地天界から
戻ってこられ
ました

地天界は
どうだった？



地天界に入ると
浅茅明王と
優節如来という
神さまが先導され

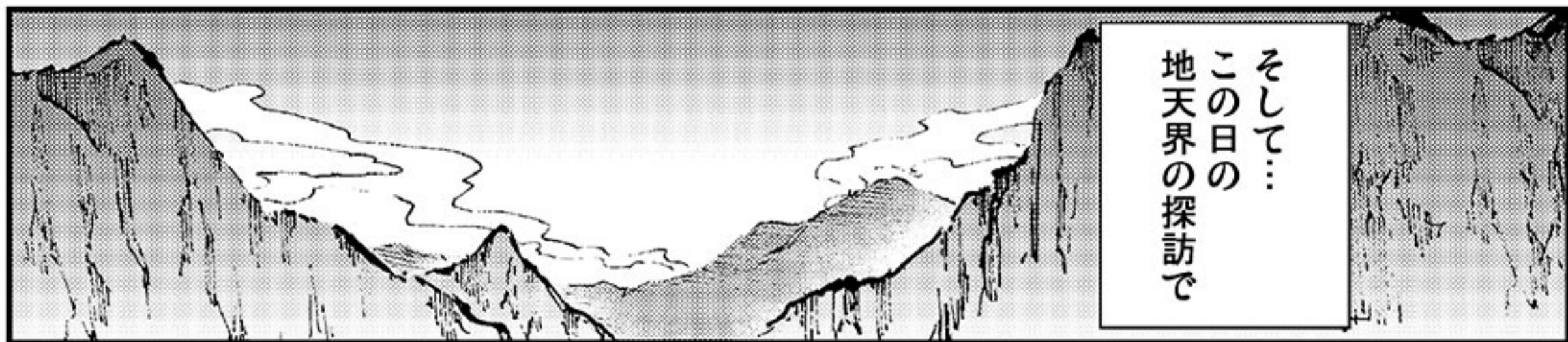
通る道の両側には
地天界の神々が
ずらりと並び
礼をしながら
私を迎えて
下さっています

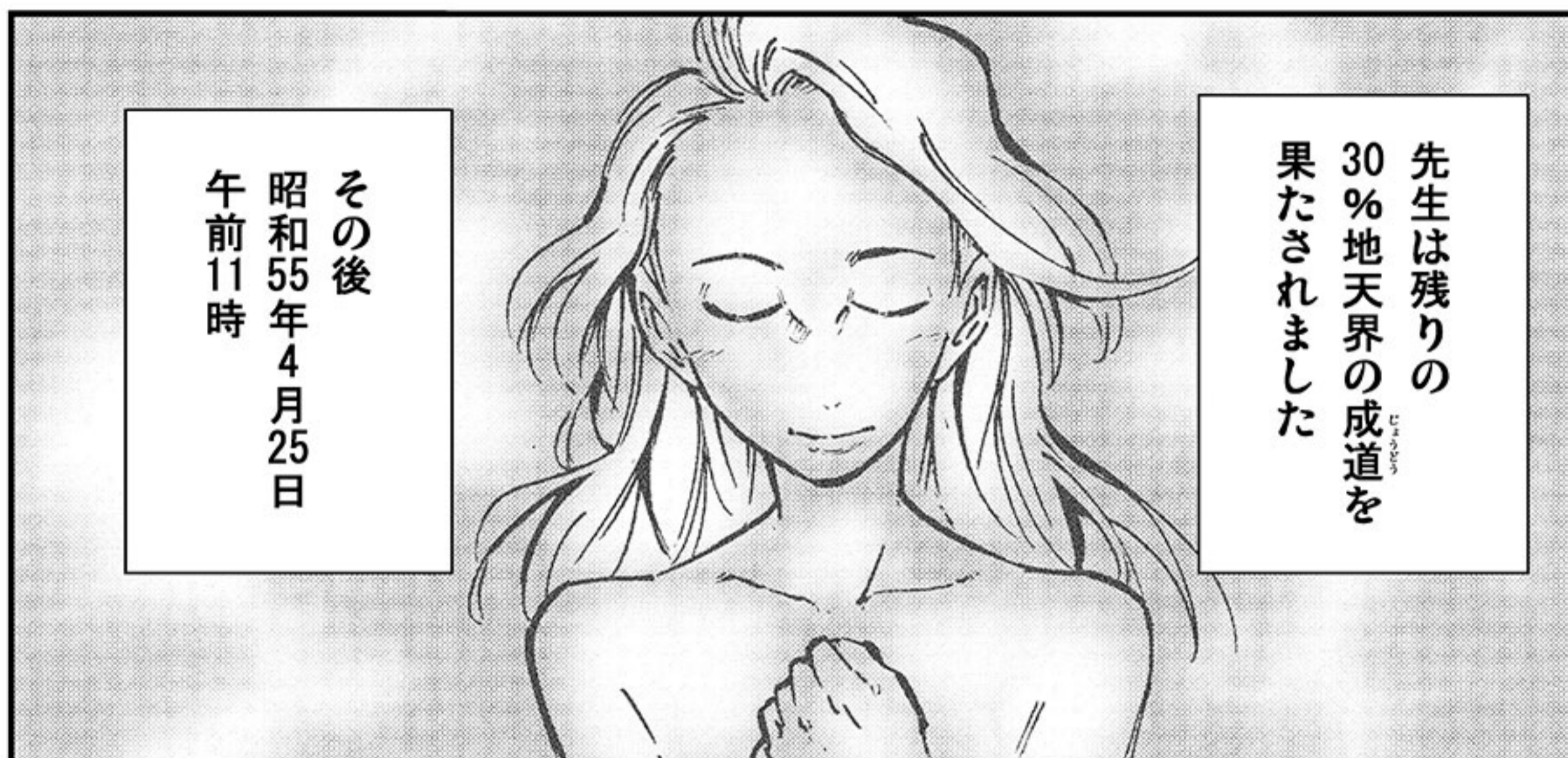
それで
お二人のあとを
ついていくと…



地天界の宮殿に
案内され…

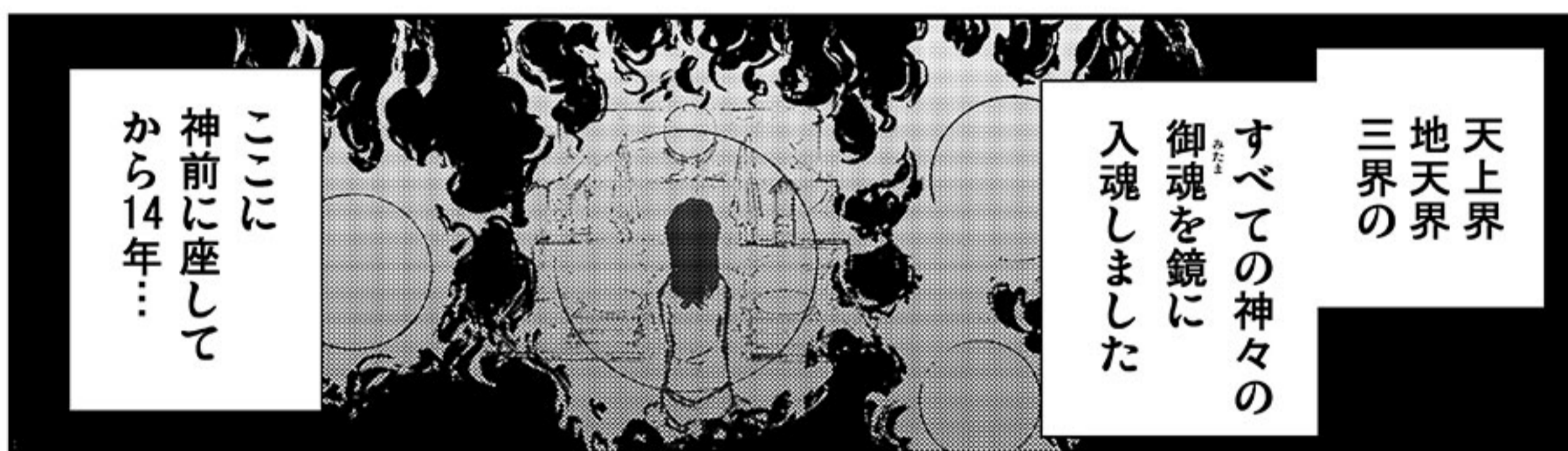
地天界の成道を
知らせて
くれたんです





先生は残りの
30% 地天界の成道^{じてんかいのじょうどう}を
果たされました

その後
昭和55年4月25日
午前11時



天上界
地天界
三界の
すべての神々の
御魂^{みたま}を鏡に
入魂^{みたまいれ}しました

ここに
神前に座して
から14年…



卓巳先生の協力のもと
香代子先生は
天地三界の成道^{じてんかいのじょうどう}を
成し遂げ…

最高神をはじめ
天地三界の
“世の元の神々”が
数千年の時を経て
甦ったのです